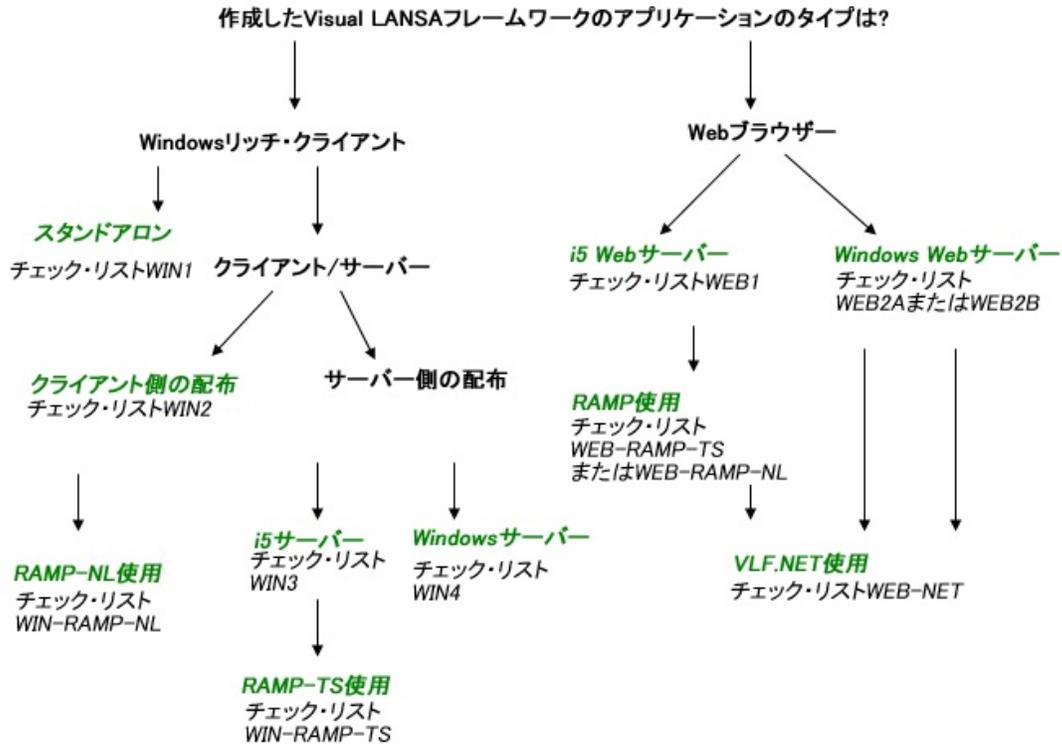


配布チェックリスト/計画シートインデックス



参照したいダイアグラムの場所でクリックしてください。

このガイドは他のLANSAガイドにリンクしています。ガイドは同じディレクトリに有る場合のみ有効です(通常は \X_WIN95\X_LANSA\Execute\Eng)。

このガイドに記載されている内容は、サイト独自の開発手順を作成するための基礎となるものです。

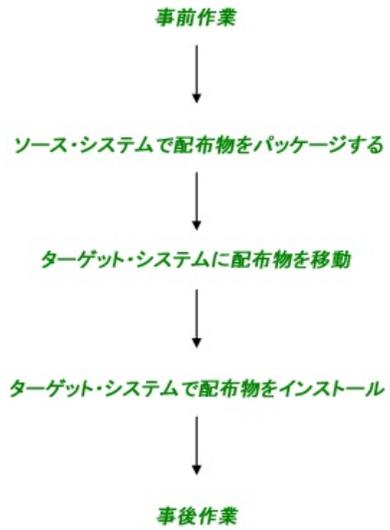
免責事項：このドキュメントの情報が正しくなるように最大限の努力をしていますが、このドキュメントの使用により生じたいかなる損害賠償についてもLANSAは責任を持ちません。LANSAは明示的にも暗黙的にも保障しません。

エディション日付：2011年10月28日、EPC 870

© 2011 LANSА

チェックリスト/計画シート => WEB1

VLf Webブラウザ・アプリケーションをiSeriesサーバーに配布する方法



参照したいダイアグラムの場所でクリックしてください。

概要

このチェックリストは、IBM i サーバーへ、フレームワークのウェブ・アプリケーションを配布する際に必要になるステップを示しています。

WEB1, Step 1. 事前作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
ターゲットシステムの必要ライセンス	LANSA for the Webのライセンス	詳細は http://www.lansa.jp/index.htm を参照ください。	
WAMのサポート	WAMを使用する場合は、IBM XML Toolkitを入手してください。		
フレームワーク・アプリケーションの配布の準備	配布準備が完了した実行可能なフレームワーク・アプリケーションが必要です。	詳細については、『フレームワークガイド』の「 フレームワーク・バージョンの配布 」を参照ください。	
サポートされる最低限の構成(MSC: minimum supported configuration)の確立	<p>以下を含む、ユーザーのソリューションでサポートされる最低限の構成を正式に定義する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ハードウェア最小推奨要件 • ソフトウェア最小推奨要件 • サポートされる画面解像度 • 最低限のネットワーク機能 • 最低限のデータ 	<p>正式なMSC(サポートされる最低限の構成)により以下のことが可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ソリューション全体のコストに関する決定を通知する • ソリューションやこれに対するパッチ、ホットフィックスの配布時のテストに必要な環境を確立する • "MSC以下"のソリューションを導入する際のリスクを経営陣 	

量

に認識してもらう
詳細については、『Visual
LANSA フレームワーク ガ
イド』の「[アプリケーションのパフォーマンス](#)」を参
照してください。

WEB1, Step 2. ソースシステムで配布物をパッケージ

このステップを完了することにより、IBM i から配布する全てを含む Bnn_ALL という名前の1つの複合セーブファイルを得ることができます。

ステップ	必要な作業	方法	✓
ビルド番号の割り当て	リリースする実行環境のビルド番号nnを割り当ててください。その番号は以下のステップでファイルの命名規則で使用します。		
VLF.NET オブジェクトの組み込みオプション	フレームワークを.NET 実行可能ファイルとしてコンパイルする場合は、選択したVLF.NET 機能を含めて保管する必要があります。	配布パッケージに組み込む VLF.NET オブジェクトを作成を参照してください。	
LANSA サーバー・オブジェクト(IFSのオブジェクトなど)を組み込む	<p>サーバー・オブジェクトを保管するためにセーブ・ファイルを作成</p> <p>下記の標準LANSAサーバー・オブジェクトを組み込んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • イメージ • Javascripts • HTMLファイル • XMLファイル • CSSファイル 	<p>CRTSAVF コマンドで IBM i のセーブファイル Bnn_IFS(nnはバージョン番号)を作成します。</p> <p>IBM i IFS のリストされた全てのオブジェクトを、SAV コマンドでこのセーブファイルに保管してください。このセーブファイルは LANSA と LANSA 以外のオブジェクトを含みます。一般的なインストールでは、イメージフォルダの全てのファイルを組み込みます。</p> <p>SAV と RST コマンドに関する</p>	

る参考を参照ください。
以下のファイルが組み込まれていることを確認してください。

VLF_FLA_<function>.js

VF_*.*

FP_*.*

UF*.*

さらにサーバー・オブジェクトを組み込んでください。

RAMPを使用している場合は、パッケージのオブジェクトを含めてください。

「配布用にRAMP-TS画面定義を準備」または

「配布パッケージにRAMP-NLのオブジェクトを追加」を参照してください。

VLF.NETアプリケーションを配布している場合は、

「配布パッケージにVLF.NETのオブジェクトを追加」を参照してください。

LANSA以外のオブジェクトの組み込み

アプリケーションがLANSA以外のオブジェクトを必要とする場合は、それらを含むセーブファイルを作成してください。LANSA以外のオブジェクトは:

- RPGプログラム
- DDSファイル

IBM i のLANSA以外のオブジェクトを含むBnn_OM1、Bnn_OM2、他のIBM i セーブファイルを必要に応じて作成してください。

全てのLANSA以外のオブジェクトをセーブファイルBnn_OM1、2、3、...nにSAVOBJコマンドで保管してください。

	<ul style="list-style-type: none"> • COBOLプログラム • DB2ファイル • データ・エリア • データ・キュー 		
IBMi の エクス ポート・ リストを 作成	Bnn_ALLという名前の LANSAエクスポート・ リストを作成してくだ さい。	システム保守メニューでエ クスポート・リストの処理 オプションを使ってエクス ポート・リストを作成して ください。	
エクス ポートリ ストに LANSAオ ブジェク トを登録	フィルタ、コマンドハ ンドラ、その他の LANSAオブジェクトを 登録してください。	エクスポート・リストの処理 メニューのオプションを使用 して、アプリケーション で使用する全てのオブジェ クトがエクスポート・リス トに登録されていることを 確認してください。	
エクス ポート・ リストへ のセーブ ファイル の組み込 み	エクスポート・リスト に作成した保管ファイ ルを追加してくださ い。	オプション外部オブジェク ト(LANSA以外)のリスト登録 を使用します。 ファイルの検索にはF20を使用 します。	
全ての標 準フレー ムワー ク・オブ ジェクト をエクス ポート・ リストに 登録	エクスポート・リスト にオブジェクトを追加 する時に、F8を使用し て総称選択をしてくだ さい。		
	フィールド :	FP_E*	

		FP_R* UB* UF_* VF_*	
	ファイル(ファイルの中に含まれるデータを含む):	FPTAB VFPPF06 VFPPF07	
	プロセス/ファンクション:	UF_* VF*	
	その他/LANSA以外:(タイプ*SRVPGM)	U_BIF985	
	ウェブHTMLコンポーネント:	FP_R* UB_* VF_*	
	ウェブレット:	FP* UB* VLF_LAYOUT	
	Visual LANSAコンポーネント:	FP_* VF_AW* VF_LW* VF_SW*	
	エクスポート・リストを見直し、オブジェクトが(必要に応じて)コンパイルされエクスポートされるかを確認してください。	プロセス、ファンクション、VLコンポーネントなどのコンパイル形式にYを指定してください。 リストを保管(F19)してください。	
リストをエクスポート		CRTSAVFコマンドを使用して、エクスポート・リスト用にセーブファイル	

Bnn_ALLを作成してください。

エクスポート・リストを
セーブファイルに、エクス
ポート・リストの処理メ
ニューのオプション7(=エク
スポート)でエクスポートし
てください。

SAVとRSTコマンドに関する参考

SAVとRSTコマンドは、セーブファイルのオブジェクトの保管と復元に必要になります(SAVOBJとRSTOBJコマンドは、IBM i のライブラリにあるセーブ・オブジェクトに対して使用するもので、IFSオブジェクトに対しては使用できません)。

次の例を検討してみましょう。

- SAVは、イメージフォルダとプライベートフォルダ VLF_Private_Developmentから必要な大量のファイルを保管します。
- セーブファイルは、ディレクトリRAMP_Newlookにある全てのRAMP-NLで配布されるcabファイルも含んでいます。
- ターゲットとなるセーブファイルはIFSSaveと呼ばれます。

以下のサンプルで自分専用のSAVコマンドを作成することもできますが、コマンドにはパス、作成したセーブファイルの名前、サイトに必要な全てのファイルが含まれ、パスについて正しいものであることを確認してください。

コマンドラインから入力したい場合は、CALL QCMDを実行してください。QCMDでF11を押すことで、SAVコマンドで多くのオブジェクトを入力するスペースを得ることができます。

```
SAV DEV('/QSYS.lib/QGPL.lib/B01_IFS.file')
OBJ('/LANSA_vlfpmlib/webserver/images/VLF_FLA_*.js')
('/LANSA_vlfpmlib/webserver/images/VF_*.*)
('/LANSA_vlfpmlib/webserver/images/VLF_Private_Development/VF_*.*)
('/LANSA_vlfpmlib/webserver/images/VLF_Private_Development/FP_*.*)
('/LANSA_vlfpmlib/webserver/images/VLF_Private_Development/UF_*.*)
('/LANSA_vlfpmlib/webserver/images/VLF_Private_Development/RAMP_Ne
```

必要な全てのオブジェクトを指定するスペースが無い場合、1つ以上のセーブファイルを作成してください。例えば、1つはイメージフォルダのオブジェクトのセーブファイル、もう1つはプライベート作業フォルダのオブジェクトのセーブファイルを作成することができます。

セーブファイルをDSPSAVFコマンドを使ってチェックしてください(ディレクトリの中で最終的にファイルに到達するまでEnterを押してオブジェクトを表示してください)。

IFSSaveで保管されたオブジェクトを他のIFSディレクトリの復元するためには、保管したディレクトリ毎に3つのRSTコマンドを使う必要があります。RSTコマンドを実行する時に、ターゲットとなるディレクトリ

は予め存在している必要があることに注意してください。

以下のRSTコマンドはターゲット・システムに、イメージが保管されたディレクトリと同じ名前のディレクトリに復元します。

```
RST DEV('/qsys.lib/vlfpplib.lib/B01_IFS.file')
OBJ('/LANSA_vlfpplib/webserver/images')
```

以下のRSTコマンドはターゲット・システム上のVLF_Private_Productionというフォルダに、VLF_Private_Developmentとして保管されたオブジェクトを復元します。

```
RST DEV('/qsys.lib/vlfpplib.lib/B01_IFS.file')
OBJ('/LANSA_vlfpplib/webserver/images/VLF_Private_Development'
*INCLUDE '/LANSA_vlfpplib/webserver/images/VLF_Private_Production'))
```

以下のRSTコマンドはターゲット・システムに、フォルダRAMP_Newlookを復元します。

```
RST DEV('/qsys.lib/vlfpplib.lib/B01_IFS.file')
OBJ('/LANSA_vlfpplib/webserver/images/VLF_Private_Development/RAMP'
*INCLUDE
'/LANSA_vlfpplib/webserver/images/VLF_Private_Production/RAMP_NewL
```

以下のSAVコマンドは、axes/ts/screensフォルダおよびプライベート作業定義サブフォルダ内にあるscreens.jsnという名前のファイルを全てライブラリQGPL内のRAMPTSFという名前のセーブ・ファイルに保存します。

```
SAV DEV('/qsys.lib/qgpl.lib/RAMPTSF.file') OBJ('/axes/ts/screens/')
PATTERN(('screens.jsn'))
```

WEB1, Step 3. ターゲットシステムに配布物を移動

いくつかのセーブファイルBnn_ALLを物理的に配布する方法があります。

- IBM i 用のテープ
- IBM i 用のCD
- PC用のCD
- E-mail
- Webサイトからダウンロード

IBM i ファイルをPCに、あるいはPCから移動

XFLRTOSAVFとXSAVFTOFLRコマンドは、IBM i のセーブファイルをPCへ(あるいは逆向きに)移動するのに便利です。例えば、配布サイクルは次のようになります。

ステップ	必要な作業	方法	
配布したいセーブファイルをIFSのPCファイルに変換	XSAVFTOFLRコマンドを使って、IFS上のBnn_ALL.SAVをBnn_ALLセーブファイルから作成します。 QDLS(CRTDIRコマンドを使って)ディレクトリにサブディレクトリを作成する必要があります。	XSAVFTOFLR PCFILE(Bnn_ALL.SAV) FOLDER(MYFOLDER) SAVEFILE(Bnn_ALL) LIBRARY(MYLIB)	
PCのフォルダにファイルをコピーして圧縮	Bnn_ALL.SAVをPCフォルダにコピーしてBnn_ALL.ZIPを作成します。		
ターゲットシステムに移動	Bnn_ALL.ZIPを移動。 - コピー、e-mail、webサイトからのダウンロード、CD、他		
解凍	ターゲットで、Bnn_ALL.SAVを得るためにBnn_ALL.ZIPを解凍します。		
IFSへコピー	ターゲットシステムのQDLSディレクトリのサブディレクトリとしてフォルダを作成し、Bnn_ALL.SAVをコピー		

	します。		
セーブ ファイル を変換	XFLRTOSAVFを使用して、Bnn_ALL.SAVをIBM i のBnn_ALLという名前のセーブファイルに変換します。 ファイルが、インポート準備完了になります。	XFLRTOSAVF PCFILE(Bnn_ALL.SAV) FOLDER(MYFOLDER) SAVEFILE(Bnn_ALL) LIBRARY(MYLIB)	

WEB1, Step 4. ターゲットシステムで配布物をインストール

ステップ	必要な作業	方法	✓
IBM i サーバーに LANSAD をインストール	<p>LANSAD CD から LANSAD/AD をインストールします。</p> <p>LANSAD システムが、配布物を作成したシステムと同じバージョン、EPC レベルである必要がある点に注意してください。</p> <p>LANSAD for the Web もインストールします。</p>	<p>LANSAD IBM i オブジェクトインストールガイド の指示に従ってください。</p>	
VLF.NET アプリケーションを配布する場合は、Microsoft .NET Framework をエンド・ユーザーの PC にインストール	<p>「Microsoft .NET Framework をエンド・ユーザーの PC にインストール」を参照してください。</p>		
ターゲットシステムで LANSAD for the Web のイ	<p>Web 使用可能区画を確認してください。</p> <p>LANSAD for the Web のプロセスかファンクションを実行してください。</p>		

<p>ンストールと稼働確認</p>			
<p>使用しているHTTPサーバーの構成がServer Side Includesをサポートしているかを確認</p>	<p>例えば、HTTPサーバー構成がDEVINSTである場合、このコマンドはIBM i コマンドラインで次のように実行できます。</p> <p style="text-align: center;">WRKHTTPCFG DEVINST</p> <p>構成の設定をざっと見て、以下のようなエントリーが含まれていることを確認します。</p> <p>Imbeds On html</p> <p>エントリーがなければ、また追加する自信がなければIBM i 管理者に連絡しエントリーを追加してもらいます。HTTPサーバー構成が変更された場合、一般に変更を反映するには、一度停止し、再起動する必要があります。</p>		
<p>交換リストの拡張が有効であることを確認</p>	<p>交換リストの拡張オプションが選択されている必要があります。</p>	<p>LANSA for the Web アドミニストレータを使用して、サーバー・システムに接続してください。</p> <p>ツール・メニューからシステムの構成を選択します。その他タブを選択し、交換リストの拡張が有効になっ</p>	

		<p>ている(チェック・ボックスがチェックされている)ことを確認します。</p>	
<p>VLF.NETを使用している場合は、IBM i Apacheサーバーの構成が正しいことを確認</p>	<p>IBM i ApacheサーバーにあるMIMEタイプ制御表に対して少々構成を変更し、ファイルが正しく保存されるようにする必要があります。</p>	<p>Apache管理ブラウザ・インターフェース(ポート2001の*ADMINインスタンス)を使用して[コンテンツ設定]リンクをクリックします。</p> <p>[MIME]タブで、[追加]ボタンをクリックし、次のコンテンツタイプのエントリーを追加します。</p> <p>ファイル拡張子 - 値</p> <p>application - application/x-ms-application</p> <p>manifest - application/x-ms-manifest</p> <p>deploy - application/octet-stream</p> <p>または、テキスト・エディターで構成ファイルを編集する場合は、関連するセクションに次の行を追加します。</p> <pre>AddType application/x-ms-application application AddType application/x-ms-manifest manifest AddType application/octet-stream deploy</pre>	
<p>フレームワークにプライベート作業フォルダを作</p>	<p>Visual LANSAのフレームワークをブラウザで実行するために、必要なファイルをアップロードするプライベート作業フォルダを作成する必要があります。</p> <p>ウェブ・サーバーのLANSA for the Webイメージ・ディレクト</p>		

成	<p>りのサブディレクトリにこのディレクトリを作成します。例えば、IMAGESという名前のLANSA for the Webのイメージ・ディレクトリ場合は、 <C:\Program Files\ <LANSA>\Webserver\ IMAGES\VLF_Private_Folder> を作成します。</p> <p>プライベート作業ディレクトリはウェブブラウザからアクセスできなければなりません。テストのために、次のURLを入力します。</p> <p>http://<your host>/images/VLF_Private_Folder</p> <p><your host>はLANSA for the WebサーバーのIPアドレスです。</p>		
アプリケーション・サーバーに配布物をインポート	<p>LANSAインポート機能を使用して、ターゲット・マシンの該当区画にセーブファイル Bnn_ALLから全てをインストールします。</p>	<p>LANSAのシステム保守メニューの現行区画へのオブジェクト・インポートオプションを使用します。インポートが成功したことを確認します。</p>	
IFSオブジェクトの復元	<p>Bnn_IFSから全てのオブジェクトを、ターゲットシステムのIFSのイメージとプライベート作業フォルダに復元します。</p> <p>RAMP-NLを使用する場合は、RAMPオブジェクトを復元してください。</p>	<p>RSTコマンドかCLプログラムのコールを使用してください。</p> <p>SAVとRSTコマンドに関する参考を参照ください。</p> <p>RAMP-TSを配布する場合は、「配布ターゲットでRAMP-TS画面定義をインストール」を参照してください。</p>	

<p>非LANSA オブジェ クトの復 元</p>	<p>アプリケーションに非 LANSAオブジェクトが ある場合、ターゲット システムのIBM i の適切 なライブラリに Bnn_OMnファイルから 全てを復元してくださ い。</p>	<p>RSTOBJコマンドを使って セーブファイルからライブ ラリベースのオブジェクト を復元してください。例え ば以下ようになります。</p> <pre>RSTOBJ OBJ(*ALL) SAVLIB(B01_OM1) DEV(*SAVF) SAVF(B01_OM1)</pre>	
---------------------------------------	--	---	--

<p>一時 ファ イル を保 存す る ディ レク トリ を作 成</p>	<p>フレーム ワークの 一時ファ イルを保 存する作 業フォル ダを作成 する必要 がありま す。 LANSA for the Webイ メージ・ ディレク トリのサ ブディレ クトリに このディ レクトリ (通常は IMAGES) を作成し ます。</p>	<p>例えば、LANSA for the Webイメージ・ディレクトリの 名前がIMAGESの場合、IBM i に作成するディレクトリ は: /LANSA_vlfpnglib/webserver/images/VLF_Temporary_Fi 詳細はテンポラリ・ディレクトリとは何か、また何に 用されるかを参照してください。</p>
---	--	--

<p>一時 ディレ クトリ</p>	<p>例えば、<i>VLF_Temporary_Files</i>を 実際のディレクトリIMAGES、 あるいはLANSAIMG(11.0以前</p>		
---------------------------	---	--	--

がウェブブラウザからアクセスできることを検証

のLANSA)のサブディレクトリとして作成した場合、インターネット・ブラウザのアドレス・バーで以下を入力します。

```
http://your  
host/images/VLF_Temporary_Files
```

<your host>はLANSA for the WebサーバーのIPアドレスです。

ブラウザはディレクトリIMANGES、あるいはLANSAIMG内のディレクトリVLF_Temporary_Filesの内容を表示します。

注：使用しているウェブ・サーバーは、実ディレクトリ名LANSAIMGを仮想のディレクトリ名/IMAGES/に翻訳します。

システム設定のために管理者コンソールを実行

管理者コンソールを使ってシステム設定のメンテナンスと一時状態のデータをクリアします。

管理者コンソールを実行するには、Internet Explorerのワークステーションで、以下のURLを実行します。

```
http://<your host>/cgi-  
bin/lansaweb?  
procfun+vf_pr004+vf_u0402+  
<ppp>
```

ここで、your hostはLANSA for the WebサーバーのIPアドレスで、<ppp>は使用する区画で

システム設定を使用

フレームワークは使用可能ですか?:はい

Apache Webサーバー:はい

フレームワーク使用不可時のメッセージ:この区画を使用するフレームワークすべてが無効になったときにユーザーに表示するメッセージ

テンポラリ・ファイルの物理ディレクトリ:

/lansaimg/VLF_Temporary_Files/

テンポラリ・ファイルの仮想ディレクトリ:

/images/VLF_Temporary_Files/
SSI(サーバー・サイド・イン

	<p>す。 値の検査と保存ボタンをクリックしてこれらのシステム設定を保存してください。最終的なWebフォームは実行したすべてのテストに合格する必要があります。</p>	<p>クラウド)の使用:はい 詳細は管理者コンソールを実行を参照してください。</p>
--	--	--

<p>ソフトウェアのインストールを確認</p>	<p>LANSAs for the Webコンポーネントのインストールまたはアップグレードが正しいか検証するには、Internet Explorerを起動し以下のURLを実行します。</p> <pre>http://<your host>/cgi-bin/lansaweb?procfun+vf_pr004+vf_u0401+<ppp></pre> <p>結果のウィンドにインストールされたフレームワークの詳細が表示されます。</p>	
-------------------------	---	--

<p>フレームワーク・アプリケーションの実行</p>	<p>フレームワーク・アプリケーションを実行します。 アプリケーションを配布した区画を明示的に指示する必要があります。指示しない場合は、開発区画に対してフレームワークを実行することになります。 指示するには、右側のサンプルのように区画の名前をURLに指定するか、 vf_Sy001_System_XXX_XXX.htm</p>	<p>通常、起動URLは以下のサンプルです。</p> <pre>http://nnn.nnn.nnn.nnn/./vf_Sy001_Spartition=ppp</pre> <p>例えば以下ようになります。</p> <pre>http://<your host>/images/Private/vf_sy001_systempartition=mpx</pre> <p>アプリケーションが実行できないメッセージを参照しトレースを実行すれば以下ようになります。</p> <pre>http://<your</pre>
----------------------------	--	--

ファイルを開き、変数var
_Partition settingの値がその
区画を示すように変更しま
す。

『フレームワーク ガイド』
のトピック「[配布したVLF
Web ブラウザ・アプリケー
ションを起動するためのURL
が複雑すぎるため、ユーザー
がブラウザーに正確に入力で
きない](#)」も参照してくださ
い。

```
host>/images/Private/vf_sy001_syste  
trace=y+developer=y
```

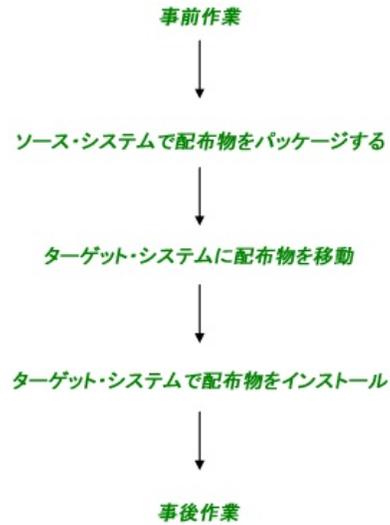
『フレームワーク ガイド』の「[V
開始オプション](#)」を参照し、アプ
に何が実行できるのかを確認しま

WEB1, Step 5. 事後作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
セキュリティの考慮事項	<p>ウェブブラウザからのアクセスに対して、いくつかの重要ファイルを読み取り専用にすることを検討してください。</p> <p>一般的には、フォルダレベルでウェブサイト管理者が設定します。</p> <p>例えば、XMLシステム定義ファイルと Javascript ファイルは最低限、常に個別、あるいは不正に内容を変更されないようにフォルダベースで読み取り専用にセットアップすべきです。</p>		
バックアップとリカバリー方針	<p>ターゲットシステムで定期的なバックアップとリカバリーの方針を作成すべきです。</p>		
保守方針	<p>VLFアプリケーションの変更を配布する方法を工夫してください。</p>		

チェックリスト/計画シート => WEB2A

VLF Webブラウザ・アプリケーションをiSeriesサーバーに配布する方法



参照したいダイアグラムの場所でクリックしてください。

概要

このチェックリストは、LANSAシステムがWindowsマシンで、ウェブ・サーバーがWindowsの場合に、フレームワークのウェブアプリケーションを配布する際に必要になるステップを示しています。

WEB2A, Step 1. 事前作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
ターゲットシステムの必要ライセンス	<p>LANSА for the Webのライセンス</p> <p>Windowsアプリケーション・サーバー上にライセンスが必要です。</p> <p>WindowsのWebサーバー・マシン上にライセンスは不要です。</p>	<p>詳細はhttp://www.lansa.jp/index.htmを参照ください。</p>	
WAMのサポート	<p>WAMを使用する予定の場合、Internet Explorer V6.0以降、およびMSXML 4.0SP2パーサーがインストールされている必要があります。</p>		
フレームワーク・アプリケーションの配布の準備	<p>配布準備が完了した実行可能なフレームワーク・アプリケーションが必要です。</p>	<p>詳細については、『フレームワークガイド』の「フレームワーク・バージョンの配布」を参照ください。</p>	
サポートされる最低限の構成(MSC: minimum supported configuration)の確立	<p>以下を含む、ユーザーのソリューションでサポートされる最低限の構成を正式に定義する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ハードウェア最小推奨要件 • ソフトウェア最 	<p>正式なMSC(サポートされる最低限の構成)により以下のことが可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ソリューション全体のコストに関する決定を通知する • ソリューションやこ 	

小推奨要件

- サポートされる画面解像度
- 最低限のネットワーク機能
- 最低限のデータ量

れに対するパッチ、ホットフィックスの配布時のテストに必要となる環境を確立する

- "MSC以下"のソリューションを導入する際のリスクを経営陣に認識してもらう

詳細については、『Visual LANSA フレームワーク ガイド』の「[アプリケーションのパフォーマンス](#)」を参照してください。

WEB2A, Step 2. ソースシステムで配布物をパッケージ

ステップ	必要な作業	方法	✓
ビルド番号の割り当て	リリースする実行環境のビルド番号nnを割り当ててください。その番号は以下のステップでファイルの命名規則で使用します。		
VLF.NET オブジェクトの組み込みオプション	フレームワークを.NET 実行可能ファイルとしてコンパイルする場合は、選択したVLF.NET 機能を含めて保管する必要があります。	配布パッケージに組み込むVLF.NETオブジェクトを作成を参照してください。	
サーバー・オブジェクトの圧縮	<p>圧縮ファイルを作成し、全ての標準サーバー・オブジェクトと自分のサーバー・オブジェクトを組み込みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • イメージ • Javascripts • HTMLファイル • XMLファイル • CSSファイル • DLL 	<p>例えばBnn_Webserver.zip(nnはバージョン番号)のような、.zipファイルを作成して、LANSA for the Webのイメージフォルダとプライベート作業フォルダ(通常イメージフォルダの下に存在)のファイルを組み込みます。</p> <p>以下のファイルが組み込まれていることを確認してください。</p> <p>VLF_FLA_<function>.js VF_*. * FP_*. * UF*. *</p> <p>さらにサーバー・オブジェクトを組み込んでください。</p>	

VLF.NETアプリケーションを配布している場合は、[配布パッケージにVLF.NETのオブジェクトを追加](#)を参照ください。

典型的なインストールでは、イメージフォルダの全てのファイル(プライベート作業ファイルを含む)を組み込むので、イメージフォルダの全てを単純に圧縮することができます。

しかし、同じディレクトリ名を使用していない場合には、ターゲットマシンの正しいディレクトリに配置することが重要であるため、二つの圧縮ファイルを作成してください。 - 1つはイメージフォルダのオブジェクト(プライベート作業フォルダのイメージを除く)を組み込み、もう1つはプライベート作業フォルダのファイルを組み込みます。

配布ツールの開始

Visual LANSAにログインして配布ツールを開始してください。

Visual LANSAを開始して配布したいアプリケーションを含むパーティションにログインしてください。

使用するユーザー・プロファイルが、配布オブジェクトに対する権限を持っているかどうか確認してください。

ツールメニューから、配布ツールコマンドを選択します。 Visual LANSA配布ツ

		ルのメイン・ウィンドウが開きます。
配布ツールのアプリケーションとパッケージを作成	配布ツールでアプリケーションとパッケージを作成してください。 テンプレートを使用しないでください。	ツールバーのNewのボタンをクリックするか、アプリケーションメニューの新規作成コマンドを選択してください。 アプリケーションの明細を入力 OKをクリックします。パッケージを作成するためのプロンプトが表示されます。パッケージの詳細を入力してOKをクリックします。 パッケージのコントロールパネルが表示されます。
配布オプションの設定	パッケージの配布オプションを自己解凍Zipに設定してください。 別の配布オプションを選択した場合は、このチェック・リストは機能しません。	オプションボタンをクリックすると配布オプションのウィンドウが表示されます。
パッケージ設定の指定	Visual LANSAがインストールされたシステムに配布される場合は、実行オブジェクト同様にLANSAのコードも選ぶことができます。 <ul style="list-style-type: none"> 開発環境へ配布 	[パッケージの設定]ウィンドウを表示するためにツールバーの[パッケージの設定]ボタンをクリックします。
どのパラメータを	パッケージがインストールされる時にセッ	例えば、ターゲットのディレクトリをオプションにす

<p>プロンプトするか決定</p>	<p>トアップ・パラメータをプロンプトしたい場合は、パラメータを選択してX_STARTのプロンプトあるいはセットアップ中のプロンプトのオプションをチェックしてください。</p> <p>LANSAがインストールされたシステムに配布される場合は、一般的に、省略値の値を利用できます。</p>	<p>る場合は、パラメータをダブルクリックして表示されたウィンドでセットアップ中のプロンプトのチェックボックスを選択してください。</p>	
<p>データベースを構成</p>	<p>ターゲットシステムにインストールされるデータベースの名前をデータソース名(DBII=)に指定するか、セットアップ中のプロンプトをチェックしてください。</p> <p>データベースのユーザIDとパスワードが正しいかも確認してください。</p> <p>インストールされているAdaptive Server Anywhereデータベースと、Adaptive Server Anywhereオプションチェックを選択しないでください。</p>		
<p>LANSAプログラムの追加</p>	<p>アプリケーションの全てのLANSAプログラムを追加</p> <p>Add forms starting with</p>	<p>リポジトリオブジェクトの選択ボタンをクリックします。組み込みたいオブジェクトを右側のエリアにド</p>	

FP_*, UF_* and VF_*.

Add reusable parts starting with FP_*, UF_* and VF_*.

FP_R*、UB*、VF_*で始まるWebコンポーネントを全て追加してください。

FP*、UB*、VLF_LAYOUTで始まる、Webletを追加してください

(デモンストレーションのシステムを実行したい場合は、DM_*とDW*で始まる全てのフォームと再利用可能パーツ、およびプロセスDF_PROC、必要であれば*.htm、*.bmpや*.iconファイルを組み込んでください)

プロセスVF_PR001、VF_PR002、VF_PR004、UF_SYSWB、UF_SYSBRと配下のファンクションを組み込んでください。

ラッグしてください。

次に右側の全てのオブジェクトを選択して、選択したコンポーネントの上の相互参照のアイコンを選択してください。新しいダイアログが開いて、クロスリファレンスの設定を選択することができます。

必要な全てのオブジェクトタイプが選択されていることを確認してください。

他のフレームワークオブ

区画の実行ディレクトリ（例えば、C:\Program Files\LANSA\X_WIN95\X_LANSA\x_DEM\execute）でXMLファイルを探します。

以下のファイルをパッケージに追加します(フレームワークの定義ファイルを別の名前で保管している場合は、相当するXMLファイルを追加してください)。

他オブジェクト・タ

LANSA以外のオブジェクトをダブルクリックして、現在使用

<p>オブジェクトの追加</p>	<ul style="list-style-type: none"> • vf_sy001_system.xml • vf_sy001_users.xml (使用している場合) • vf_sy001_servers.xml • vf_sy001_tables.xml <p>省略値の仮想クリップボードの内容を配布したい場合は、VF_Framework_Virtual_Clipboard_Default.dat、あるいはVF_User_Virtual_Clipboard_Default.datの一方か両方を選択してください。</p>	<p>LANSASISしていることるだい。</p> <p>配布ツールレトでは現在何システムや[れないため、する必要がる</p> <p>オブジェクOKを押してオブジェクツールされるしてください</p> <ul style="list-style-type: none"> • DFTPAC Path Id(例 *PART_D を使用し
------------------	---	---

<p>自分のオブジェクトの組み込み</p>	<p>アプリケーションの中の自分のオブジェクト(フィルター、コマンドハンドラー他)、多国語変数、システム変数、メッセージファイル、プロセス、ファンクション、イメージなどを追加してください。</p>	<p>ツールバーのリポジトリオブジェクトの選択ボタンをクリックします。</p> <p>全てのLANSASIS以外のオブジェクトが、ターゲットマシンの正しいインストールパスに設定されていることを確認してください。</p>	
-----------------------	--	---	--

<p>ウェブ・サーバーのオブジェクトの組み込み</p>	<p>Bnn_Webserver.zipファイルか、イメージファイルとプライベートフォルダに以前に保管するために作成したファイルを追加してください。</p>	<p>他オブジェクト・オプション・タブを表示します。</p> <p>LANSASIS以外のオブジェクトをダブルクリックしてオブジェクトを閲覧します。</p>	
-----------------------------	--	--	--

	<p>ターゲットシステムにパッケージをインストールする際に、圧縮ファイルはターゲットLANSAシステムの実行区画のフォルダに置かれることに注意してください。</p>		
アイコンの追加	<p>ターゲットマシンに、パッケージがインストールされる時に作成するショートカットに使用されるアイコンを追加してください。</p>	<p>パッケージ制御パネルのツールバーのアプリケーションアイコンボタンをクリックしてください。アイコンを選択してください。</p>	
デスクトップの設定	<p>デスクトップの設定を必要に応じて選択してください。</p>	<p>例えば、以下のオプションが上げられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションフォルダの作成 • 通信アドミニストレーションのショートカットの作成 • ライセンスの保守のショートカット作成 • ODBC アドミニストレーションのショートカットの作成 	
パッケージの保管	<p>定義を保存してください。</p>		
パッケージの作成	<p>クリックしてパッケージを作成してください。 アプリケーション・パッケージはX_PKGSに作成されます（例えば、C:\Program Files\LANSA\X_WIN95\X_LANSA\X_PKGS）。</p>	<p>オプションメニューでパッケージのチェックオプション</p>	

を選択しま
す。エラー
が見つから
なかったと
いうメッ
セージでな
ければなり
ません。

生成ボタン
をクリック
します。
パッケージ
のコンパ
イルが完了
するまで待
ちます。

使用中の
パーティ
ションで、
全ての
RDMLXが
利用可能に
なっていな
いと、いく
つかのdllの
コピーが失
敗したとい
うメッセー
ジが表示さ
れることに
注意してく
ださい。
メッセージ
を無視して
ください。

WEB2A, Step 3. ターゲットシステムに配布物を移動

<p>ターゲットシステムへ配布物を移動</p>	<p>パッケージ・フォルダの自己解凍Zipファイル (<i>packagename.exe</i>)をCDやネットワーク・サーバーなどのメディアにコピーしてください。 (注記：パッケージ・ディレクトリの全部をコピーしないでください。)</p>		
-------------------------	---	--	--

IBM i ファイルをPCに、あるいはPCから移動

XFLRTOSAVFとXSAVFTOFLRコマンドは、IBM i のセーブファイルをPCへ(あるいは逆向きに)移動するのに便利です。例えば、配布サイクルは次のようになります。

ステップ	必要な作業	方法	
配布したいセーブファイルをIFSのPCファイルに変換	XSAVFTOFLRコマンドを使って、IFS上のBnn_ALL.SAVをBnn_ALLセーブファイルから作成します。 QDLS(CRTDIRコマンドを使って)ディレクトリにサブディレクトリを作成する必要があります。	XSAVFTOFLR PCFILE(Bnn_ALL.SAV) FOLDER(MYFOLDER) SAVEFILE(Bnn_ALL) LIBRARY(MYLIB)	
PCのフォルダにファイルをコピーして圧縮	Bnn_ALL.SAVをPCフォルダにコピーしてBnn_ALL.ZIPを作成します。		
ターゲットシステムに移動	Bnn_ALL.ZIPを移動。 - コピー、e-mail、webサイトからのダウンロード、CD、他		
解凍	ターゲットで、Bnn_ALL.SAVを得るためにBnn_ALL.ZIPを解凍します。		
IFSへコピー	ターゲットシステムのQDLSディレクトリのサブディレクトリとしてフォルダを作成し、Bnn_ALL.SAVをコピー		

	します。		
セーブ ファイル を変換	XFLRTOSAVFを使用して、Bnn_ALL.SAVをIBM i のBnn_ALLという名前のセーブファイルに変換します。 ファイルが、インポート準備完了になります。	XFLRTOSAVF PCFILE(Bnn_ALL.SAV) FOLDER(MYFOLDER) SAVEFILE(Bnn_ALL) LIBRARY(MYLIB)	

WEB2A, Step 4. ターゲットシステムで配布物をインストール

多くのWindowsウェブ・サーバーとWindowsアプリケーション・サーバーの構成は、2つのマシンで構成されることに注意してください。

ステップ	必要な作業	方法	✓
Visual LANSAをCDからインストール	<p>ターゲット・アプリケーション・サーバーでVisual LANSAを、独立ワークステーションか独立サーバーでインストールしてください。</p> <p>インストール中の区画の初期化ダイアログで以下を選択してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• Visual LANSAフレームワーク• ウェブを有効にする• LANSAインストールをテストするためにデモストレーション・システムも選択することができます。 <p>注：アプリケーションでWAMを使用している場合に、Visual LANSAを最初にインストールし、区画をRDMLXに構成して、開発環境のログオン画面から区画の初期化オプションを使ってVisual LANSAフ</p>	<p>省略値の設定を採用 詳細は『Windows LANSAインストールガイド』とVisual LANSAフレームワークガイドを参照ください。</p> <p>Visual LANSAフレームワークを構成する必要はありません。フレームワーク・オブジェクトをVisual LANSAシステムに単純にインポートしてください</p>	

	レームワークをインポートしてください。		
VLF.NET アプリケーションを配布する場合は、Microsoft .NET Framework をエンド・ユーザーのPC にインストール	「 Microsoft .NET Framework をエンド・ユーザーのPCにインストール」を参照してください。		
Windows サーバーにLANSA for the WebをCD からインストール	<p>ターゲットのWindows サーバーで以下をインストールしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> LANSA for the Web サーバー LANSA for the Web アドミニストレータ 	<p>Visual LANSAと同じディレクトリにインストールしてください。複数のLANSAシステムがある場合、LANSA for the Webシステムと同じLANSA構成を使用してください。</p> <p>省略値の設定を採用 詳細はLANSA Windowsオブジェクトインストールガイドを参照してください。</p>	
ウェブのライセンスがあることを確認	ターゲット・アプリケーション・サーバーにウェブライセンスがあることを確認してください。	<p>詳細はhttp://www.lansa.jp/index.htmを参照ください。</p>	
LANSA	1. IISが稼動している	<p>詳細はMicrosoft IISおよびIIS</p>	

for the Webを構成	か、ウェブ・サーバーのブラウザに以下のURLを入力して確認: <code>http://localhost</code>	プラグイン を参照ください。 問題がある場合は、コマンドウィンドでiisresetコマンドを使用してください。	
	2. Microsoft Windows Script Host (WSH)がwscript.exeでインストールされているか確認		
	3. Windowsデータ/アプリケーション・サーバー上でのLANSAリスナーの構成	Windowsデータ/アプリケーション・サーバー上でのLANSAリスナーの構成 のステップに従ってください。	
	4. Windowsデータ/アプリケーション・サーバー上でのユーザーの作成	Windowsデータ/アプリケーション・サーバー上でのユーザの作成 のステップに従ってください。	
	5. データ/アプリケーション・サーバーの構成	データ/アプリケーション・サーバーの構成 のステップ1、2に従ってください。	
	6. データ/アプリケーション・サーバーとのIISプラグインの通信を確認	データ/アプリケーション・サーバーとのIISプラグインの通信 の構成に従ってください。	
	7. ウェブ・サーバーが使用可能であることの確認		
ターゲットシステムでLANSA for the Webのイ	Web使用可能区画を確認してください。 LANSA for the Webのプロセスかファンクションを実行してください。	LANSA for the Webの検査 を参照してください。	

<p>ンストールと稼働確認</p>			
<p>LANSA for the Webが Server Side Includeが構成されているか確認</p>	<p>LANSA for the Webアドミニストレータを使用して、システムがSSIを使用することを設定してください。</p>	<p>LANSA for the Webアドミニストレータを開始して、ローカル構成を開いてください。ツールメニューからシステム保守オプションを選択してください。</p> <p>正しいLANSAシステム選択して、変更ボタンをクリックしてください。Server Side Include (SSI)サポートのチェックボックスがチェックされていることを確認してください。</p>	
<p>フレームワークにプライベート作業フォルダを作成</p>	<p>Visual LANSAのフレームワークをブラウザで実行するために、必要なファイルをアップロードするプライベート作業フォルダを作成する必要があります。</p> <p>ウェブ・サーバーのLANSA for the Webイメージ・ディレクトリのサブディレクトリにこのディレクトリを作成します。</p> <p>例えば、IMAGESという名前のLANSA for the Webのイメージ・ディレクトリ場合は、 <C:\Program Files\ <LANSA>\Webserver\ IMAGES\VLF_Private_Folder> を作成します。</p> <p>プライベート作業ディレクトリはウェブブラウザからアクセスできなければなりません</p>	<p>そのフォルダの内容を見ることができない場合は、そのディレクトリをウェブ・ブラウザでブラウズできるようにする必要があります。</p> <p>IISウェブ・サーバーの場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> • コントロールパネルの管理ツールでインターネット・インフォメーション・サービスを開いてください。 • ウェブサイトのリストからイメージを選択してください。 • ディレクトリのプ 	

	<p>ん。テストのために、次の URL を入力します。:</p> <p><code>http://<your host>/images/VLF_Private_Folder</code></p> <p><your host> は LANSA for the Web サーバーの IP アドレスです。</p>	<p>ロパティで、ディレクトリの参照ボックスをチェックしてください。</p>
--	---	--

<p>一時ファイルを保存するディレクトリを作成</p>	<p>フレームワークの一時ファイルを保存するディレクトリを作成する必要があります。</p> <p>LANSA for the Web イメージ・ディレクトリのサブディレクトリにこのディレクトリ(通常は IMAGES)を作成します。</p>	<p>例えば、LANSA for the Web イメージディレクトリの名前が IMAGES の場合、作成するディレクトリは:</p> <p><code><C>:\Program Files\ <LANSA>\Webserver\ IMAGES\VLF_Temporary_Files</code></p> <p>詳細は テンポラリ・ディレクトリとは何か、また何に利用されるか を参照してください。</p>
-----------------------------	---	---

<p>一時ディレクトリがウェブブラウザからアクセスできることを検証</p>	<p>例えば、<code>VLF_Temporary_Files</code> を実際のディレクトリ IMAGES、あるいは LANSAIMG (11.0 以前の LANSA) のサブディレクトリとして作成した場合、インターネット・ブラウザのアドレス・バーで以下を入力します。</p> <p><code>http://your host/images/VLF_Temporary_Files</code></p> <p><your host> は LANSA for the Web サーバーの IP アドレスです。</p> <p>ブラウザはディレクトリ IMAGES、あるいは LANSAIMG 内のディレクトリ <code>VLF_Temporary_Files</code> の内容を表示します。</p>	
---------------------------------------	---	--

注：使用しているウェブ・サーバーは、実ディレクトリ名LANSAIMGを仮想のディレクトリ名/IMAGES/に翻訳します。

配布物を
インス
トール

LANSAシステムをインストールしたディレクトリ(例えばC:\Program Files\

WinZipの自己解凍機能(WinZip製品のライセンスとは別)がパッケージを作成したマシンにインストールされている場合は、アプリケーションが自動的にインストールされます。

インストールが完了すると、デスクトップの設定により、アプリケーションのスタートアップ・フォルダーが作成されます。

アプリケーションが利用可能になります。

インストール中に問題が生じた場合は、パッケージをインストールしているディレクトリのdpinstal.logとテンポラリ・ディレクトリのログをチェックしてください。

ウェブ・サーバーにサーバーのファイルを解凍	Bnn_webserver.zipファイルを解凍し、適宜 <i>images</i> フォルダとプライベート作業フォルダに移動してください。	ファイルを正しいディレクトリに置くことが重要です。
-----------------------	--	---------------------------

システム設定のために管理者コンソールを実行	<p>管理者コンソールを使ってシステム設定のメンテナンスと一時状態のデータをクリアします。</p> <p>管理者コンソールを実行するには、Internet Explorerのワークステーションで、以下のURLを実行します。</p> <pre>http://<your host>/cgi-bin/lansaweb?procfun+vf_pr004+vf_u0402+<ppp></pre> <p>ここで、your hostはLANSA for the WebサーバーのIPアドレスで、<ppp>は使用する区画です。</p> <p>値の検査と保存ボタンをクリックしてこれらのシステム設定を保存してください。最終的なWebフォームは実行したすべてのテストに合格する必要があります。</p>	<p>コンソールを表示できない場合、通信トレータでリスナーが稼働しているかどうかを確認してください。</p> <p>システム設定を使用 フレームワークは使用可能ですか?:はい Apache Webサーバー : いいえ フレームワーク使用不可時のメッセージを使用するフレームワークすべてが正常に動作しているときにユーザに表示するメッセージ テンポラリ・ファイルの物理ディレクトリ C:\Program Files\ <LANSA>\WebServer\Images\VLF_Temporary_Files\ テンポラリ・ファイルの仮想ディレクトリ /images/VLF_Temporary_Files/ SSI(サーバー・サイド・インクルード)はいい 詳細は管理者コンソールを実行を参照してください。</p>
-----------------------	--	--

ソフトウェアのインストールを確認	LANSA for the Webコンポーネントのインストールまたはアップグレードが正しいか検証するに	
------------------	---	--

は、Internet Explorerを起動し以下のURLを実行します。

```
http://<your host>/cgi-bin/lansaweb?procfun+vf_pr004+vf_u0401+<ppp>
```

結果のウィンドにインストールされたフレームワークの詳細が表示されます。

フレームワーク・アプリケーションの実行

フレームワーク・アプリケーションを実行します。

アプリケーションを配布した区画を明示的に指示する必要があります。指示しない場合は、開発区画に対してフレームワークを実行することになります。

指示するには、右側のサンプルのように区画の名前をURLに指定するか、

vf_Sy001_System_xxx_xxx.htm
ファイルを開き、変数var __Partition settingの値がその区画を示すように変更します。

『フレームワークガイド』のトピック「[配布したVLF Web ブラウザ・アプリケーションを起動するためのURLが複雑すぎるため、ユーザーがブラウザーに正確に入力できない](#)」も参照してください。

通常、起動URLは以下のサンプルです。

```
http://nnn.nnn.nnn.nnn/./vf_Sy001_Spartition=ppp
```

例：

```
http://<your host>/images/Private/vf_sy001_systempartition=mpx
```

アプリケーションが実行できないメッセージを参照しトレースを実行すれば以下のようにになります。

```
http://<your host>/images/Private/vf_sy001_systemtrace=y+developer=y
```

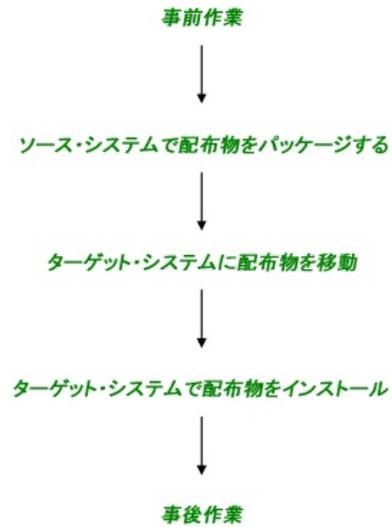
『フレームワークガイド』の「[W開始オプション](#)」を参照し、アプリに何が実行できるのかを確認しま

WEB2A, Step 5. 事後作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
<p>セキュリティの考慮事項</p>	<p>ウェブブラウザからのアクセスに対して、いくつかの重要ファイルを読み取り専用にすることを検討してください。</p> <p>一般的には、フォルダレベルでウェブサイト管理者が設定します。</p> <p>例えば、XMLシステム定義ファイルと Javascript ファイルは最低限、常に個別、あるいは不正に内容を変更されないようにフォルダベースで読み取り専用にセットアップすべきです。</p>		
<p>バックアップとリカバリー方針</p>	<p>ターゲットシステムで定期的なバックアップとリカバリーの方針を作成すべきです。</p>		
<p>保守方針</p>	<p>VLFアプリケーションの変更を配布する方法を工夫してください。</p>		

チェックリスト/計画シート => WEB2B

VLf Webブラウザ・アプリケーションをLANSAシステムをインストールした
System iと共存するWindowsサーバーに配布する方法



参照したいダイアグラムの場所でクリックしてください。

概要

このチェックリストは、LANSAシステムがIBM iで、ウェブ・サーバーがWindowsの場合に、フレームワークのウェブ・アプリケーションを配布する際に必要になるステップを示しています。

WEB2B, Step 1. 事前作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
ターゲットシステムの必要ライセンス	<p>LANSA for the Webのライセンス IBM i アプリケーション・サーバー上にライセンスが必要です。</p> <p>WindowsのWebサーバー・マシン上にライセンスは不要です。</p>	<p>詳細はhttp://www.lansa.jp/index.htmを参照ください。</p>	
WAMのサポート	<p>WAMを使用する場合は、IBM XML Toolkitを入手してください。</p>		
フレームワーク・アプリケーションの配布の準備	<p>配布準備が完了した実行可能なフレームワーク・アプリケーションが必要です。</p>	<p>詳細については、『フレームワークガイド』の「フレームワーク・バージョンの配布」を参照ください。</p>	

WEB2B, Step 2. ソースシステムで配布物をパッケージ

IBM i アプリケーション・サーバーで以下のステップを実行してください。

ステップ	必要な作業	方法	✓
ビルド番号の割り当て	リリースする実行環境のビルド番号nnを割り当ててください。その番号は以下のステップでファイルの命名規則で使用します。		
VLF.NET オブジェクトの組み込みオプション	フレームワークを.NET 実行可能ファイルとしてコンパイルする場合は、選択したVLF.NET 機能を含めて保管する必要があります。	配布パッケージに組み込むVLF.NETオブジェクトを作成を参照ください。	
LANSA以外のオブジェクトの組み込み	アプリケーションがLANSA以外のオブジェクトを必要とする場合は、それらを含むセーブファイルを作成してください。LANSA以外のオブジェクトは: <ul style="list-style-type: none"> • RPGプログラム • DDSファイル • Cobolプログラム • DB2ファイル • データ・エリア • データ・キュー 	IBM i のLANSA以外のオブジェクトを含むBnn_OM1、Bnn_OM2、他のIBM i セーブファイルを必要に応じて作成してください。全てのLANSA以外のオブジェクトをセーブファイルBnn_OM1、2、3、...nにSAVOBJコマンドで保管してください。	
IBM i の	Bnn_ALLという名前の	システム保守メニューでエ	

エクスポート・リストを作成	LANSAエクスポート・リストを作成してください。	クスポート・リストの処理オプションを使ってエクスポート・リストを作成してください。	
エクスポートリストにLANSAオブジェクトを登録	フィルタ、コマンドハンドラ、その他のLANSAオブジェクトを登録してください。	エクスポート・リストの処理メニューのオプションを使用して、アプリケーションで使用する全てのオブジェクトがエクスポート・リストに登録されていることを確認してください。	
エクスポート・リストへのセーブファイルの組み込み	エクスポート・リストに作成した保管ファイルを追加してください。	オプション外部オブジェクト(LANSA以外)のリスト登録を使用します。 ファイルの検索にはF20を使用します。	
全ての標準フレームワーク・オブジェクトをエクスポート・リストに登録	エクスポート・リストにオブジェクトを追加する時に、F8を使用して総称選択をしてください。		
	フィールド:	FP_E* FP_R* UB* UF_* VF_*	
	ファイル(ファイルの中に含まれるデータを含	FPTAB VFPPF06	

	む):	VFPPF07	
	プロセス/ファンクション:	UF_* VF*	
	その他/LANSA以外:(タイプ*SRVPGM)	U_BIF985	
	ウェブHTMLコンポーネント:	FP_R* UB_* VF_*	
	ウェブレット:	FP* UB* VLF_LAYOUT	
	Visual LANSAコンポーネント:	FP_* VF_AW* VF_LW* VF_SW*	
	エクスポート・リストを見直し、オブジェクトが(必要に応じて)コンパイルされエクスポートされるかを確認してください。	プロセス、ファンクション、VLコンポーネントなどのコンパイル形式にYを指定してください。 リストを保管(F19)してください。	
リストをエクスポート		CRTSAVFコマンドを使用して、エクスポート・リスト用にセーブファイル Bnn_ALLを作成してください。 エクスポート・リストをセーブファイルに、エクスポート・リストの処理メニューのオプション7(=エクスポート)でエクスポートし	

てください。

このステップはWindowsウェブ・サーバーで実行してください。

サーバー・オブジェクトの圧縮

圧縮ファイルを作成し、全ての標準サーバー・オブジェクトと自分のサーバー・オブジェクトを組み込みます。

- イメージ
- Javascripts
- HTMLファイル
- XMLファイル
- CSSファイル
- DLL

例えばBnn_Webserver.zip(nnはバージョン番号)のような、.zipファイルを作成して、LANSA for the Webのイメージフォルダとプライベート作業フォルダ(通常イメージフォルダの下に存在)のファイルを組み込みます。

以下のファイルが組み込まれていることを確認してください。

VLF_FLA_<function>.js

VF_*.*

FP_*.*

UF*.*

さらにサーバー・オブジェクトを組み込んでください。

VLF.NETアプリケーションを配布している場合は、配布パッケージにRAMPのオブジェクトを追加を参照ください。

典型的なインストールでは、イメージフォルダの全てのファイル(プライベート作業ファイルを含む)を組み込むので、イメージフォルダの全てを単純に圧縮することができます。

しかし、同じディレクトリ

名を使用していない場合には、ターゲットマシンの正しいディレクトリに配置することが重要であるため、二つの圧縮ファイルを作成してください。 - 1つはイメージフォルダのオブジェクト(プライベート作業フォルダのイメージを除く)を組み込み、もう1つはプライベート作業フォルダのファイルを組み込みます。

WEB2B, Step 3. ターゲットシステムに配布物を移動

いくつかのセーブファイルBnn_ALLを物理的に配布する方法があります。

- IBM i 用のテープ
- IBM i 用のCD
- PC用のCD
- E-mail
- Webサイトからダウンロード

IBM i ファイルをPCに、あるいはPCから移動

XFLRTOSAVFとXSAVFTOFLRコマンドは、IBM i のセーブファイルをPCへ(あるいは逆向きに)移動するのに便利です。例えば、配布サイクルは次のようになります。

ステップ	必要な作業	方法	
配布したいセーブファイルをIFSのPCファイルに変換	XSAVFTOFLRコマンドを使って、IFS上のBnn_ALL.SAVをBnn_ALLセーブファイルから作成します。 QDLS(CRTDIRコマンドを使って)ディレクトリにサブディレクトリを作成する必要があります。	XSAVFTOFLR PCFILE(Bnn_ALL.SAV) FOLDER(MYFOLDER) SAVEFILE(Bnn_ALL) LIBRARY(MYLIB)	
PCのフォルダにファイルをコピーして圧縮	Bnn_ALL.SAVをPCフォルダにコピーしてBnn_ALL.ZIPを作成します。		
ターゲットシステムに移動	Bnn_ALL.ZIPを移動。 - コピー、e-mail、webサイトからのダウンロード、CD、他		
解凍	ターゲットで、Bnn_ALL.SAVを得るためにBnn_ALL.ZIPを解凍します。		
IFSへコピー	ターゲットシステムのQDLSディレクトリのサブディレクトリとしてフォルダを作成し、Bnn_ALL.SAVをコピー		

	します。		
セーブ ファイル を変換	XFLRTOSAVFを使用して、Bnn_ALL.SAVをIBM i のBnn_ALLという名前のセーブファイルに変換します。 ファイルが、インポート準備完了になります。	XFLRTOSAVF PCFILE(Bnn_ALL.SAV) FOLDER(MYFOLDER) SAVEFILE(Bnn_ALL) LIBRARY(MYLIB)	

WEB2B, Step 4. ターゲットシステムで配布物をインストール

ステップ	必要な作業	方法	✓
<p>IBM i サーバーに LANSAD/AD をインストール</p>	<p>LANSAD CDから LANSAD/ADをインストールします。</p> <p>LANSADシステムが、配布物を作成したシステムと同じバージョン、EPCレベルである必要がある点に注意してください。</p> <p>LANSAD for the Webもインストールします。</p>	<p>LANSAD IBM i オブジェクトインストールガイドの指示に従ってください。</p> <p>WebサーバーはWindows上に配置されるので、IBM i でWebサーバーを構成する必要はありません。</p>	
<p>VLF.NET アプリケーションを配布する場合は、Microsoft .NET Frameworkをエンド・ユーザーのPCにインストール</p>	<p>「Microsoft .NET Frameworkをエンド・ユーザーのPCにインストール」を参照してください。</p>		
<p>ウェブのライセンスがあることを確認</p>	<p>ターゲット・アプリケーション・サーバーにウェブライセンスがあることを確認してください。</p>	<p>詳細はhttp://www.lansa.jp/index.htmを参照ください。</p>	
<p>Windows</p>	<p>ターゲットのWindows</p>	<p>省略値の設定を採用</p>	

<p>サーバーにLANSA for the WebをCDからインストール</p>	<p>サーバーで以下をインストールしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> LANSA for the Webサーバー LANSA for the Webアドミニストレータ 	<p>詳細は『Windows LANSAインストールガイド』を参照してください。</p>
<p>IBM i をアプリケーション・サーバーとして使用するよう LANSA for the Webを構成</p>	<p>LANSA for the Web Administratorを使用して、IBM i 上のLANSAシステムを参照するようにWebサーバーを構成します。</p>	<p>詳細は『Windows LANSAインストールガイド』を参照してください。</p>
<p>ターゲットシステムでLANSA for the Webのインストールと稼働確認</p>	<p>Web使用可能区画を確認してください。 LANSA for the Webのプロセスかファンクションを実行してください。</p>	<p>LANSA for the Webの検査を参照してください。</p>
<p>LANSA for the WebがServer Side Includeが構成されているか</p>	<p>LANSA for the Webアドミニストレータを使用して、システムがSSIを使用することを設定してください。</p>	<p>LANSA for the Webアドミニストレータを開始して、ローカル構成を開いてください。ツールメニューからシステム保守オプションを選択してください。 正しいLANSAシステム選択</p>

確認		<p>して、変更ボタンをクリックしてください。Server Side Include (SSI)サポートのチェックボックスがチェックされていることを確認してください。</p>	
交換リストの拡張が有効であることを確認	<p>交換リストの拡張オプションが選択されている必要があります。</p>	<p>LANSA for the Web アドミニストレータを使用して、サーバー・システムに接続してください。</p> <p>ツール・メニューからシステムの構成を選択します。その他タブを選択し、交換リストの拡張が有効になっている(チェック・ボックスがチェックされている)ことを確認します。</p>	
フレームワークにプライベート作業フォルダを作成	<p>Visual LANSAのフレームワークをブラウザで実行するために、必要なファイルをアップロードするプライベート作業フォルダを作成する必要があります。</p> <p>Windows WebサーバーのLANSA for the Webイメージ・ディレクトリのサブディレクトリにこのディレクトリを作成します。</p> <p>例えば、IMAGESという名前のLANSA for the Webのイメージ・ディレクトリ場合は、 <C:\Program Files\ <LANSA>\Webserver\ IMAGES\VLF_Private_Folder> を作成します。</p> <p>プライベート作業ディレクト</p>	<p>そのフォルダの内容を見ることができない場合は、そのディレクトリをウェブ・ブラウザでブラウズできるようにする必要があります。</p> <p>IISウェブ・サーバーの場合:</p> <ul style="list-style-type: none"> • コントロールパネルの管理ツールでインターネット・インフォメーション・サービスを開いてください。 • ウェブサイトのリストからイメージを選択してください。 	

りはウェブブラウザからアクセスできなければなりません。テストのために、次のURLを入力します。:

```
http://<your host>/images/VLF_Private_Folder
```

<your host>はLANSA for the WebサーバーのIPアドレスです。

- ディレクトリのプロパティで、ディレクトリの参照ボックスをチェックしてください。

一時ファイルを保存するディレクトリを作成

フレームワークの一時ファイルを保存する作業フォルダを作成する必要があります。

プライベート・フォルダとは異なり、このフォルダはIBM i上に作成する必要があります。

LANSA for the Webイメージ・ディレクトリのサブディレクトリにこのディレクトリ(通常はIMAGES)を作成しま

例えば、LANSA for the Webイメージディレクトリの名前がIMAGESの場合、作成するディレクトリは:

```
/LANSA/webserver/images/VLF_Temporary_Files
```

WRKLNKコマンドを使用して、IBM i上のWEBSERVERディレクトリとIMAGESディレクトリを検索します。CRTDIRコマンドを使用して、フォルダを作成します。

詳細は[テンポラリ・ディレクトリとは何か、また何に利用されるか](#)を参照してください。

す。

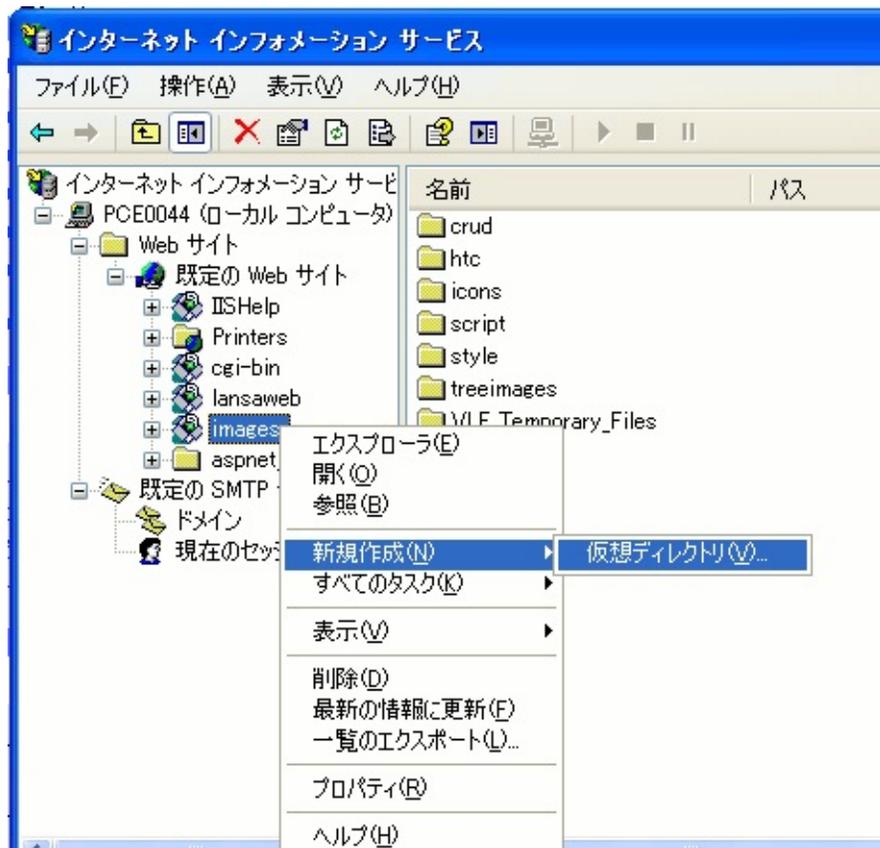
IBM i 上の一時作業フォルダを参照するために Web サーバーに仮想ディレクトリを作成

一時作業ディレクトリは Web ブラウザからアクセスできなければなりません。Windows Web サーバーを使用している、ディレクトリは IBM i 上にあるので、実際のディレクトリを参照する仮想ディレクトリを Web サー

以下のステップを実行する必要があります(この例では、IISを使用しています)。

ステップ1：インターネット・インフォメーション・サービスで、デフォルトのWebサイト・ディレクトリを選択し、次にImagesを選択します。

右クリックして新規作成を選択し、仮想ディレクトリを選択します。



ステップ2：別名として、VLF_Temporary_Filesなどの仮想ディレクトリを指定します。

ステップ3：IBM i 上に作成した実際のネットワーク・ディレクトリを指定し、この別名にマップします。実際のディレクトリのパスは、次の形式で指定します。

\\<iSeries>\root\webserver\images\VLF_Temporary_Files

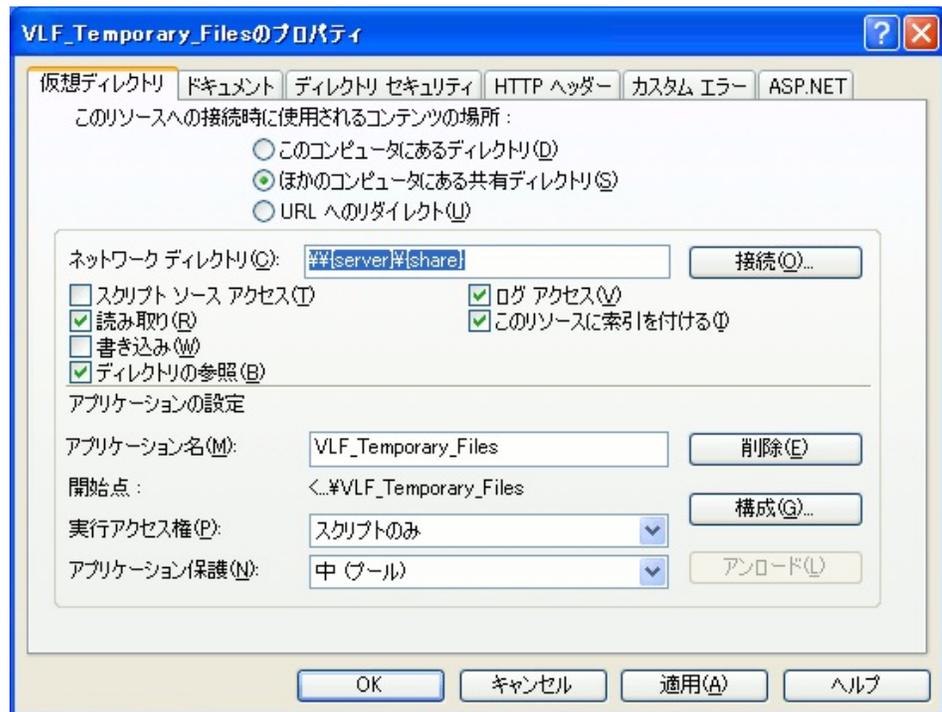
仮想ディレクトリが作成されたら、そのディレクトリを選択して右クリックし、プロパティを表示しま

バーに作成する必要があります。

す。

オプションほかのコンピュータにある共有ディレクトリが選択されていることを確認します。

読み取りとディレクトリの参照チェック・ボックスがオンになっていることも確認します。



ステップ4：このディレクトリに接続するためのユーザーIDとパスワードを指定するには、ディレクトリのプロパティで名前を指定して接続...ボタンをクリックします。ユーザーIDとパスワードは、Windows WebサーバーとIBM i で同じでなければなりません (WindowsのユーザーIDとパスワードは、大文字と小文字が区別されるので、設定時に注意が必要です)。

ステップ5：この仮想ディレクトリをテストするには、次のURLを入力します。

`http://<your host>/images/VLF_Temporary_Files`

<your host> はLANSA for the Web WindowsサーバーのIPアドレスです。

ブラウザーは、IBM i 上のVLF_Temporary_Filesフォルダのディレクトリの内容を表示できる必要があります。

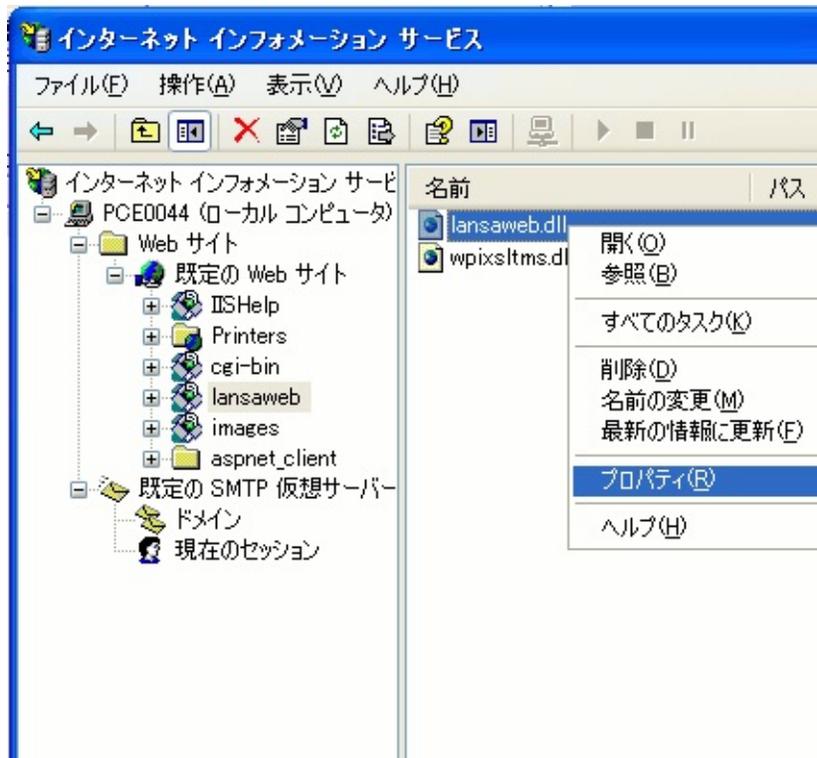
す。

IIS仮想ディレクトリにエラーを示すアイコンが表示されている場合でも、ディレクトリの内容を表示できるのであれば無視してかまいません。

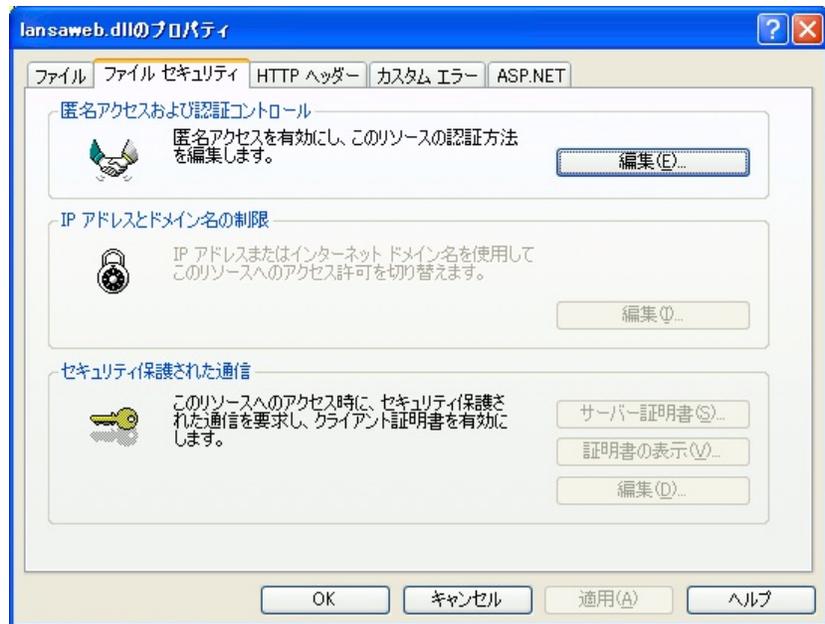
lansaweb.dll
ファイルの
認証が適切
であることを
確認

Windows
上の
lansaweb
dllは、
仮想
ディレ
クトリ
を經由
して
IBM iに
アクセ
スし、
VLF
XML
ページ
を取得
するの
で、認
証が適
切であ
ること
を確認
する必
要があ
ります
す。

デフォルトのWebサイトを展開して、lansawebリソースを見つけます。クリックすると、右側のペインにファイル・リストが表示されます。lansaweb.dllを右クリックして、プロパティを選択します。



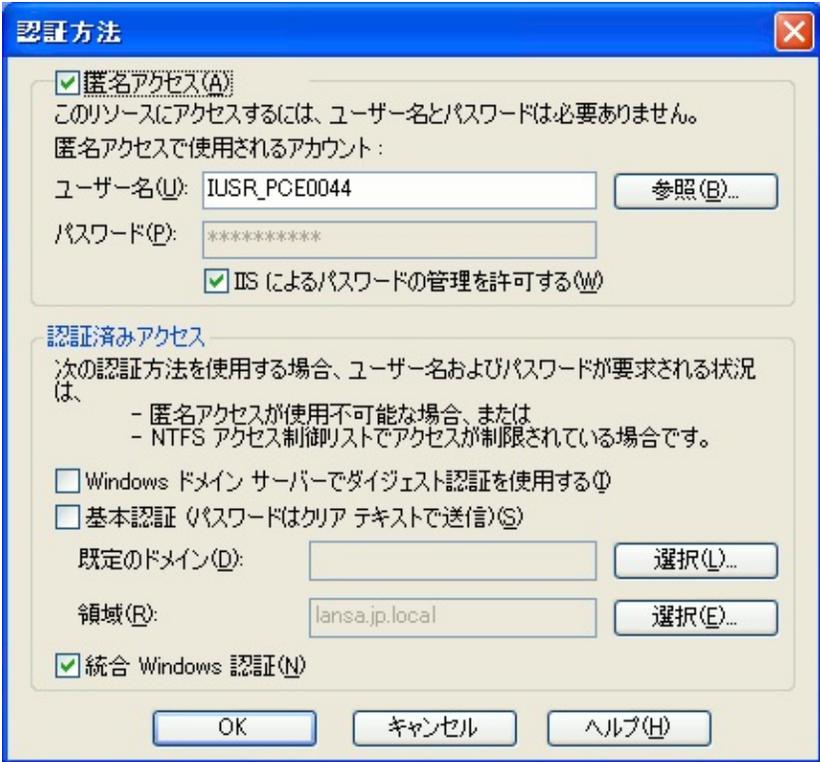
ファイル セキュリティ・タブの匿名アクセスおよび認証コントロールセクションで、編集ボタンをクリックします。



認証方法ダイアログが表示されます。

ユーザーを確認します。

- 有効なWindowsユーザー(つまり、サーバー・ボックスにログインできるユーザー)であること
- 有効なIBM i ユーザーであること



WindowsユーザーとIBM iユーザーのパスワードは同じにする必要があります。

<p>ウェブ・サーバーにサーバーのファイルを解凍</p>	<p>Bnn_webserver.zipファイルを解凍し、適宜 <i>images</i> フォルダとプライベート作業フォルダに移動してください。</p>	<p>ファイルを正しいディレクトリに置くことが重要です。</p>	
<p>アプリケーション・サーバーに配布物をインポート</p>	<p>LANSAインポート機能を使用して、ターゲット・マシンの該当区画にセーブファイル Bnn_ALLから全てをインストールします。</p>	<p>LANSAのシステム保守メニューの現行区画へのオブジェクト・インポートオプションを使用します。インポートが成功したことを確認します。</p>	
<p>非LANSAオブジェクトの復</p>	<p>アプリケーションに非LANSAオブジェクトがある場合、ターゲット</p>	<p>RSTOBJコマンドを使ってセーブファイルからライブラリベースのオブジェクト</p>	

元	システムのIBM i の適切なライブラリに Bnn_OMnファイルから全てを復元してください。	を復元してください。例えば以下ようになります。 RSTOBJ OBJ(*ALL) SAVLIB(qtemp) DEV(*SAVF) SAVF(B01_OM1)
---	---	--

システム設定のために管理者コンソールを実行	<p>管理者コンソールを使ってシステム設定のメンテナンスと一時状態のデータをクリアします。</p> <p>管理者コンソールを実行するには、Internet Explorerのワークステーションで、以下のURLを実行します。</p> <pre>http://<your host>/cgi-bin/lansaweb?procfun+vf_pr004+vf_u0402+<ppp></pre> <p>ここで、your hostはLANSA for the WebサーバーのIPアドレスで、<ppp>は使用する区画です。</p> <p>値の検査と保存ボタンをクリックしてこれらのシステム設定を保存してください。最終的なWebフォームは実行したすべてのテストに合格する必要があります。</p>	<p>コンソールを表示できない場合、通トレータでリスナーが稼働しているかどうかを確認してください。</p> <p>システム設定を使用 フレームワークは使用可能ですか?:はい Apache Webサーバー:いいえ フレームワーク使用不可時のメッセージ画面を使用するフレームワークすべてが正常に動作しているときにユーザーに表示するメッセージテンポラリ・ファイルの物理ディレクトリ: /<LANSA>/webserver/images/VLF_Temporary_Files/ テンポラリ・ファイルの仮想ディレクトリ: /images/VLF_Temporary_Files/ SSI(サーバー・サイド・インクルード)は正常に動作している 詳細は管理者コンソールを実行を参照してください。</p>
-----------------------	--	---

ソフトウェアのインストールを確認	LANSA for the Webコンポーネントのインストールまたはアップグレードが正しいか検証するには、Internet Explorerを起	
------------------	--	--

動し以下のURLを実行します。

```
http://<your host>/cgi-bin/lansaweb?procfun+vf_pr004+vf_u0401+<ppp>
```

結果のウィンドにインストールされたフレームワークの詳細が表示されます。

フレームワーク・アプリケーションの実行

フレームワーク・アプリケーションを実行します。

アプリケーションを配布した区画を明示的に指示する必要があります。指示しない場合は、開発区画に対してフレームワークを実行することになります。

指示するには、右側のサンプルのように区画の名前をURLに指定するか、

vf_Sy001_System_xxx_xxx.htm ファイルを開き、変数var __Partition settingの値がその区画を示すように変更します。

『フレームワークガイド』のトピック「[配布したVLF Web ブラウザ・アプリケーションを起動するためのURLが複雑すぎるため、ユーザーがブラウザーに正確に入力できない](#)」も参照してください。

通常、起動URLは以下のサンプルです。

```
http://nnn.nnn.nnn.nnn/./vf_Sy001_Spartition=ppp
```

例えば以下のようになります。

```
http://<your host>/images/Private/vf_sy001_systempartition=mpx
```

アプリケーションが実行できないメッセージを参照しトレースを実行すれば以下のようになります。

```
http://<your host>/images/Private/vf_sy001_systemtrace=y+developer=y
```

『フレームワークガイド』の「[V 開始オプション](#)」を参照し、アプリに何が実行できるのかを確認しま

WEB2B, Step 5. 事後作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
<p>セキュリティの考慮事項</p>	<p>ウェブブラウザからのアクセスに対して、いくつかの重要ファイルを読み取り専用にすることを検討してください。</p> <p>一般的には、フォルダレベルでウェブサイト管理者が設定します。</p> <p>例えば、XMLシステム定義ファイルと Javascript ファイルは最低限、常に個別、あるいは不正に内容を変更されないようにフォルダベースで読み取り専用にセットアップすべきです。</p>		
<p>バックアップとリカバリー方針</p>	<p>ターゲットシステムで定期的なバックアップとリカバリーの方針を作成すべきです。</p>		
<p>保守方針</p>	<p>VLFアプリケーションの変更を配布する方法を工夫してください。</p>		

チェックリスト/計画シート => WEB-RAMP-TS

RAMP-TSアプリケーションをiSeriesサーバー・システムに配布する方法

事前作業



配布用にRAMP-TS画面定義を準備



配布ターゲットでRAMP-TS画面定義をインストール



事後作業

参照したいダイアグラムの場所でクリックしてください。

このチェックリストは、IBM iサーバーにRAMP-TSアプリケーションを配布するときに、[チェックリスト/計画シート => WEB1](#)と組み合わせて使用してください。

概要

このチェックリストは、[チェックリスト/計画シート](#) => WIN3の指示に従ってRAMP-TSオブジェクトを配布パッケージにどのように組込むかを示しています。

WEB-RAMP-TS, Step 1. 事前作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
ターゲットシステムの必要ライセンス	ターゲットのIBM i サーバ上にAxex-TSのライセンスが必要です。		
サポートされる最低限の構成(MSC: minimum supported configuration)の確立	<p>以下を含む、ユーザーのソリューションでサポートされる最低限の構成を正式に定義する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ハードウェア最小推奨要件 • ソフトウェア最小推奨要件 • サポートされる画面解像度 • 最低限のネットワーク機能 • 最低限のデータ量 	<p>正式なMSC(サポートされる最低限の構成)により以下のことが可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ソリューション全体のコストに関する決定を通知する • ソリューションやこれに対するパッチ、ホットフィックスの配布時のテストに必要となる環境を確立する • "MSC以下"のソリューションを導入する際のリスクを経営陣に認識してもらう <p>詳細については、『Visual LANSА フレームワーク ガイド』の「アプリケーションのパフォーマンス」を参照してください。</p>	

WEB-RAMP-TS, Step 2. 配布用にRAMP-TS画面定義を準備

配布環境では、RAMP-TS画面定義は、通常\axes\ts\screensという名前のAxes Screensフォルダーに保持されています。[プライベート定義フォルダ]を使用して画面定義を分割して格納した場合は、Axes Screensフォルダーのサブフォルダーとして表示されます。

ステップ	必要な作業	方法
定義ファイルの確認	<p>個々の定義ファイルから削除されたサンプルまたはテスト用のスタティックまたはダイナミック・テーブル定義がないか確認します。</p> <p>削除された定義は通常はアプリケーションで現在使用されていません。また、実稼働環境に配布すると、エラーが発生する可能性があります。</p>	<p>プライベート・フォルダー(存在: \axes\ts\screensフォルダーにあるTables_Dynamic.txtファイルを開き定義を削除します。</p>
aXesファイルのセーブ・ファイルへの追加	<p>開発Axes Screensフォルダーまたは任意の関連するプライベート定義フォルダーにある次のファイルをセーブ・ファイルにコピーします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • application_definition.css (plus application_definition_*.css) • application_definition.js • Extension_*.js • screen_*.js • screens.jsn • Tables_Static.txt 	<p>まず、CRTSAVFコマンドを使用を作成し、次にIBM i 保存コマンドをセーブ・ファイルに保存します。例えば、次のコマンドは/axesデモンストラをセーブ・ファイルに保存します。</p> <pre>SAV DEV('/qsys.lib/savefilelib.lib/IBI OBJ('/axes'))</pre> <p>次のコマンドは、/axesおよび/axesコンテンツを保存します。</p> <pre>SAV DEV('/qsys.lib/savefilelib.lib/IBI OBJ('/axes') ('/axesdemo'))</pre> <p>次のコマンドは、プライベートファイルをセーブ・ファイルにイ</p>

- Tables_Dynamic.txt
- Userenv.js
- *.xml

これらのファイルの中には、システムに存在しないものがある場合があります。

また、アプリケーションで共有スクリプトを使用している場合は、uf_sy420_rts.js ファイルを組み込みます。このファイルは、ts/skins フォルダーまたはプライベート定義フォルダーにあります。

アプリケーションを英語以外の言語で表示する場合は、修正済みのテキスト・ファイル Texts_Cust_*.txt も配布する必要があります。

N.scn のような名前の付いたファイルが単一の画面定義を表します。通常、これらのファイルは、RAMP-TS の開発時にのみ使用され、実行時のターゲット・システムに配布する必要はありません。ターゲット環境のユーザーに画面定義の修正を許可する場合にのみ、これらのファイルを配布パッケージに組み込みます。

```
SAV DEV('/QSYS.lib/QGPL.lib/R/
OBJ('/axes/ts/screens/MyFolder/ap
('/Axes/ts/screens/MyFolder/applica
('/Axes/ts/screens/MyFolder/Extens
('/Axes/ts/screens/MyFolder/screen_
('/Axes/ts/screens/MyFolder/screens
('/Axes/ts/screens/MyFolder/Tables_
('/Axes/ts/screens/MyFolder/Useren
('/Axes/ts/screens/MyFolder/*.xml')
('/Axes/ts/skins/uf_sy420_rts.js')) T
```

コマンドラインから入力したいは
を実行してください。QCMDでF
コマンドで多くのオブジェクト
得ることができます。

サー
バー・
パッ

[チェックリスト/計画シート](#)
=> WIN3 に戻ります。

ページ
の作成
を続行

WEB-RAMP-TS, Step 3. 配布ターゲットでRAMP-TS画面定義をインストール

ステップ	必要な作業	方法	✓
ターゲット・コンピュータへのAxes-TSのインストール	Axes-TSをターゲットのIBM iサーバーにインストールする必要があります。	「 IBM iサーバー上でのRAMP-TS / aXes-TSのインストールと構成 」を参照してください。	
アプリケーション・フォルダーの作成	ターゲット・システムで、ibm i CRTDIRコマンドを使用して、 <code>\axes\ts\screens</code> フォルダのサブフォルダとしてアプリケーション・フォルダを作成します。	このフォルダの名前には英数字のみが使用でき、ブランクは使用できません。 例えばフォルダMyApplication1を <code>\axes\ts\screens\フォルダ</code> に作成する場合は、以下ようになります。 CRTDIR DIR('axes\ts\screens\myapplication1')	
権限の設定	IBM i WRKLNKコマンドを使用して、フォルダMyApplication1にユーザー*PUBLICの*R権限のみが含まれ、それ以外の	WRKLNK OBJ('axes\ts\screens\MyApplication1')を使用し、次にオプション9=Work with authorityを使用してフォルダMyApplication1に対する権限を表示または変更します。	

	<p>権限は含まれないようにします。</p>		
<p>テーブルのロード</p>	<p>SQLコマンドを使用してスタティックまたはダイナミック・テーブルをアプリケーションにロードすることができます。 aXesサーバーを実行しているユーザーに、必要なSQL/データベース・テーブルに対するREAD権限が付与されていることを確認します。</p>	<p>コマンドは、aXesサーバーを実行しているユーザー・プロファイル下で実行されます。</p> <p>そのためには、必要なSQLテーブルに対する読み取りアクセス権をユーザー・プロファイルに承認する必要があります。このユーザーには、システム上のその他のデータベースに対する権限は必要ありません。</p>	
<p>aXes定義を格納しているセーブ・ファイルのターゲット・システムへの配布</p>	<p>ターゲット・システムで、IBM i RSTコマンドを使用してaXesファイルをターゲット・システムのアプリケーション・フォルダーに復元します。 警告：復元したscreens.jsnファイルには、全てのRAMP-TS画面定義が含まれています。</p>	<p>セーブ・ファイルを復元するには、次のようなコマンドを使用します。</p> <pre>RST DEV('/qsys.lib/v11vlflib.lib/rampstf.file') OBJ(('Axes/ts/screens/MyFolder' *INCLUDE '/axes/ts/screens/myapplication1'))</pre> <p>DEVパラメータはセーブ・ファイルの名前とパスを指定します。 OBJパラメータは、以下を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初に、ファイルの保存元のフォルダーを指定します。 *INCLUDEでオブジェクト名のパターンに一致するオブジェクト 	

ターゲット・システム上の任意のユーザーが開発者または設計者としてAxesを起動し、画面を識別して定義を保存しようとするすると、screens.jsnファイルが発行されます。これにより、全ての画面定義がこのファイルから効率よく削除されます。ただし、開発者または設計者が新たに定義した画面は除きます。このような場合は、screens.jsnファイルを再度復元する必要があります。

このシステムの全てのアプリケーションで使用されるaXes eXtensionは、個人のアプリケーション・フォルダーではなく、ターゲット・システムのaxes/ts/screensフォルダーにあります。

を指定します。

- 最後に、ファイルの復元先となるターゲット・システム上のフォルダーを指定します。

	<p>同一のaXes eXtensionが screensフォルダーとアプリケーション・フォルダーに存在する場合は、アプリケーション・フォルダー内のeXtensionが優先されますが、確実ではないため、どちらのバージョンが使用されているのか確認する必要があります。</p>		
<p>IE設定の確認</p>	<p>RAMP-TSが使用されている全てのPCのIEの設定を確認します。</p>	<p>『RAMP-TSガイド』の「Internet Explorerのセキュリティ設定の確認」を参照してください。</p>	

WEB-RAMP-TS, Step 4. 事後作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
5250画面定義の変更をアップデート	RAMPアプリケーションに新しい5250画面の追加や、既存の画面の機能の変更を行う場合には、それらの変更が再配布が必要な screens.jsnファイルに反映されます。	このガイドの適切な手順を全てまたは一部繰り返します。	
バックアップとリカバリー方針	ターゲットシステムで定期的なバックアップとリカバリーの方針を作成すべきです。		
保守方針	VLFアプリケーションの変更を配布する方法を工夫してください。		

チェックリスト/計画シート => WEB-RAMP-NL

RAMPブラウザ・アプリケーションをiSeriesサーバーに配布する方法



参照したいダイアグラムの場所でクリックしてください。

このチェックリストは[チェックリスト/計画シート => WEB1](#)と組み合わせて使用ください。

概要

このセクションでは、エンドユーザが最初にシステムにログオンする時にnewlookを自動配布するためにRAMP-NLをどう構成するかを示しています。この方法で、個別のマニュアルのインストールと構成を避けることができ、保守もシンプルになります。

以下の手順で作成して、サーバーで十分にテストしてください。

以下はnewlookバージョン8.0用のものを記述しています。newlookの他のリリースのステップも同様です。

newlookを自動配布するためのWeb RAMP-NLアプリケーションの構成について

newlookを自動配布するために特定のウェブページを指定します。ブラウザがPCにnewlookがインストールされていないことを検出すると、ActiveXのダウンロード確認画面以外にはユーザー操作が必要ないnewlookのActiveXダウンロードを起動して、その後でnewlookを起動します。

クライアントPCにWindowsとInternet Explorer以外に必要なものは有りません。

クライアントがRAMP-NLの画面に最初にアクセスする時に、newlook関連ファイルがローカルPCにダウンロードされます。繰り返しのアクセスでは、すでにインストールされたファイルが使用されます。ウェブサーバーのアップデートにより必要なファイルのダウンロードとインストールが行われます。これらのファイルは完成したパッケージとしてのみダウンロードされインストールされます。

ActiveXコントロールはホストからのライセンスを常に要求することに注意してください。newlook 8.0では、ホスト上にliteclientライセンスが必要です。

WEB-RAMP-NL, Step 1. 事前作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
IBM i サーバーに LANSAD、LANSAD for the Web、Visual LANSAD フレームワークをインストール	RAMP-NLの利用を可能にするためにVisual LANSADフレームワークシステムを機能させる必要があります。		
開発コンピュータに newlook をインストール	newlook をフルインストールした開発コンピュータが必要になります。 フルインストールとは、nlmain.cab ファイルではなく newlook のセットアッププログラムでインストールしたものを意味します。		
ターゲットシステムの必要ライセンス			
サポートされる最低限の構成(MSC: minimum supported configuration) の確立	以下を含む、ユーザーのソリューションでサポートされる最低限の構成を正式に定義する必要があります。 <ul style="list-style-type: none"> ハードウェア最 	正式なMSC(サポートされる最低限の構成)により以下のことが可能になります。 <ul style="list-style-type: none"> ソリューション全体のコストに関する決定 	

小推奨要件

- ソフトウェア最小推奨要件
- サポートされる画面解像度
- 最低限のネットワーク機能
- 最低限のデータ量

を通知する

- ソリューションやこれに対するパッチ、ホットフィックスの配布時のテストに必要な環境を確立する
- "MSC以下"のソリューションを導入する際のリスクを経営陣に認識してもらう

詳細については、『Visual LANSA フレームワーク ガイド』の「[アプリケーションのパフォーマンス](#)」を参照してください。

WEB-RAMP-NL, Step 2. 配布パッケージに組み込むRAMP-NL オブジェクトを作成

チェックリストWEB1で作成される配布パッケージに組み込むRAMP-NL
オブジェクトを以下のステップで作成します。

WEB-RAMP-NL, Step 2a. [プライベート作業フォルダにRAMP_Newlook
フォルダを作成](#)

WEB-RAMP-NL, Step 2b. [RAMP_Newlookフォルダにnewlookのファイル
をコピー](#)

WEB-RAMP-NL, Step 2c. [RAMP.cabファイルを作成しRAMP_Newlookフォ
ルダにコピー](#)

WEB-RAMP-NL, Step 2d. [コードベースおよび更新ファイルを指定](#)

WEB-RAMP-NL, Step 2e. [自動Web配布パッケージのテスト](#)

WEB-RAMP-NL, Step 2a.プライベート作業フォルダに RAMP_Newlook フォルダを作成

RAMP-NLアプリケーション実行時にnewlookをブラウザに自動的に配布するために、ウェブ・サーバーにnewlookのいくつかのオブジェクトをインストールする必要があります。このセクションでは、それらのオブジェクトを置くためのフォルダをウェブ・サーバーのどこに置くかを推奨します。フォルダは下記の通りにブラウザからアクセスすることも確認する必要があります。

ステップ	必要な作業	方法
ウェブ・サーバーの準備	<p>ウェブ・サーバーのVisual LANSAフレームワークのプライベート・フォルダに RAMP_Newlook という新しいフォルダを作成します。</p> <p>RAMP_Newlook フォルダに Test.txt という名前でファイルを作成します。</p> <p>Test.txt ファイルにいくつかのテキスト(ダミーのテキストで可)を追加します。</p> <p>ブラウザを使って RAMP_Newlook フォルダにアク</p>	<p>テストするためには、ブラウザに RAMP_Newlook があるディレクトリを URL に入力します。例えば以下ようになります。</p> <p><code>http://wsrv/images/private/RAMP_Newlook/</code></p> 

	<p>セスできるか、Testファイルを見ることができ るか確認しま す。</p>	
<p>テス ト ファ イル の削 除</p>	<p>これらのステッ プがうまく行っ たら、Test.txt ファイルを削除 します。(上記 のステップは、 RAMP_Newlook フォルダへの ウェブアクセス を確認するた めに利用されま す。)</p>	

WEB-RAMP-NL, Step 2b.RAMP_Newlookフォルダにnewlookのファイルをコピー

いくつかのCABファイルとサーバーにダウンロードすべきものを示したファイルを、ウェブ・サーバーのRAMP_Newlookフォルダに置く必要があります。

これらの内3つのファイルはLook Softwareのウェブサイトからダウンロードする必要があります。- 自分で作ろうとしないでください。理由のひとつは、これらのファイルがデジタルサインされているからで、自分でデジタルサインをする際の手間を省くことができます。さらに、これらのCABファイルはターゲットPCにnewlookのActiveXを登録するために必要になる情報を含んでいます。

(Look Softwareのウェブサイトからダウンロードせずに、次のステップで自分自身で作成する必要があるRAMP.cabファイルがあります。)

<p>Look Software サイトからCAB ファイルをダウンロード</p>	<p>http://www.looksoftware.com/cab80j/ にアクセスして、下記ファイルをダウンロードします。(Nlupdate.nluファイルはhttp://www.looksoftware.com/cab80/よりダウンロードしてください。)</p> <ul style="list-style-type: none">• Newlook.cab• Nlmain.cab• Nlupdate.nlu <p>ウェブ・サーバーのRAMP_Newlookフォルダにこれらのファイルを置きます。</p>	
<p>NewLookのアップデートファイルの拡張子を.txtに変更</p>	<p>Nlupdate.nluをNlupdate.txtに変更します。</p> <p>注記：PCのセキュリティー設定により、Nlupdate.nlu.txtとしてダウンロードされます。</p> <p>このようにする理由は、ウェブ・サーバーが.txtファイルは安全で、nluを安全と判断しないことにありま</p>	

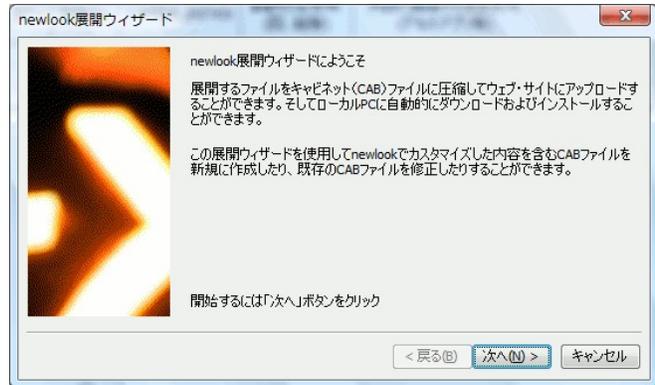
	<p>す。 .nluの拡張子を残した場合、ユーザーはファイルダウンロードの問題に遭遇するでしょう。</p>	
<p>newlook アップ デート ファイル をウェブ サーバーの CAB ファイル を指すように変更</p>	<p>newlookの自動ウェブ配布は、シンプルにブラウザで指定されたウェブページにアクセスすることで実行されます。</p> <p>ブラウザがnewlookソフトウェアがPCにインストールされていないことを検知すると、ソフトウェアのダウンロードを自動的に開始しウェブページにnewlookを起動します。</p> <p>nlupdate.txtファイルの情報は、newlookのCABファイルをどこからダウンロードすればよいのかをシステムに指示します。</p> <p>Nlupdate.txtファイルを開き内容を下記の通りに修正してください。</p> <p>nlcofig.cabファイルへの全ての参照をRAMP.cabに変更します。</p> <p>newlookDir値 を"%ProgramFiles%/LANSA RAMP NewLook"あるいは他の意味のある名前に変更します。ターゲットPCのnewlookがロードされるディレクトリになります。</p> <p>[nlmain.cab]と[RAMP.cab]のURL値を、これらのファイルが置かれるウェブ・サーバーを参照するように変更します。</p> <p>変更内容を保存します。</p>	<p>結果のファイルは次の</p> <pre>[newlook] Update=nlmain.cab,RA newlookDir=%PROGR newlook [nlmain.cab] Desc=newlook Program Url=http://wsrv/images/ [RAMP.cab] Desc=newlook Configu Url=http://wsrv/images/</pre>

WEB-RAMP-NL, Step 2c.RAMP.cabファイルを作成し RAMP_Newlookフォルダにコピー

RAMP cabファイルは、newlook.sidとnewlook.ini構成ファイルを含みます。これらは特定のアプリケーションに固有のもので、このファイルは自身で作成して、ウェブ・サーバーのRAMP_Newlookディレクトリに移動する必要があります。

<p>オプションでnewlook.SIDファイルのサイズを縮小</p>	<p>自身のcabファイルを作成する前に、ターゲットシステムにより早く配布できるようにnewlook.SIDファイルを圧縮することをお勧めします。</p>	<p>newlook.sidファイルをバックアップし い。 newlookの全てのセッションを終了し DOSプロンプトを開いてしてください newlookのプログラムファイルディレ してください。 .SIDファイルからnewlookの開発機能を 縮された.SIDファイルを作成するた イプしてください。 <code>CHKSID -s newlook.SID</code> または、何らかの理由で開発機能を残 れた.SIDファイルを作成するために以 してください。 <code>CHKSID -r newlook.SID</code> <Enter>を押します。 壊れたアイテムを削除するか質問され は、'Yes'を選択してください。圧縮が と、オリジナルのファイルは拡張子が 同じファイル名でバックアップされま CABファイルを作成する前に、RAMP ケーションが正しく実行できるかこれ プを実行した後にテストしてください</p>
<p>newlook配布ウィザードを開始</p>	<p>looksoftware 8.0のディレクトリでnldeploy.exeを見つ</p>	<p>次へをクリックします。</p>

けて、アプリケーションを開始してください。
アプリケーションは.SIDと.INIファイルを含むRAMP.cabファイルを作成します。



newlookのパス名を入力

newlookのインストールが存在するパス名を入力してください(配布するファイルが含まれるトップレベルのディレクトリ)。
次へを押します。

省略値のインストールはC:\Program Files\looksoftware 8.0になります。



省略値のターゲットパスの使用

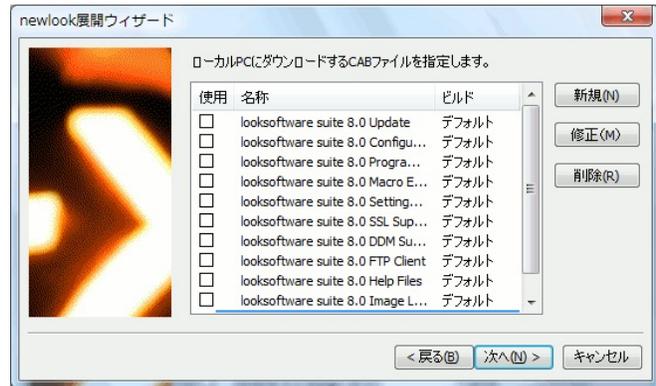
省略値をそのままにします。
ここで入力する値は、nldeploy.exeアプリケーションで作成されたnlupdate.nluファイルで利用されます。
[WEB-RAMP-NL, Step 2b.RAMP_Newlookフォルダに](#)

nlupdate.txtファイルはこの値が%PROGRAMFILES%\LANSA RAMP設定されています。

newlookのファイルをコピーで nlupdate.nlu(拡張子を.txtに変更)を作成したので、このアプリケーションで作成したものは使用しません。

新しい RAMP.cab ファイルの作成

サイトの特定の情報(.INIと.SIDファイル)を含むCABファイルの定義を作成します。
ダウンロードで利用するCABファイルを指定してスクリーンの新規のボタンを選択します。



CABファイルの詳細を指定

新規CABファイルの詳細のダイアログでカスタムCABファイルの作成が選択されているか確認してください。
CABファイルのURLを指定し、名前をRAMP.cabとしてください。
LANSA RAMP-NL カustomイズ・ファイルなどの意味のある記述を指定してください。
ユーザーはインストール中にこの記

URLのサンプル:

http://wsrv/images/Private/RAMP_newlook

注記：ここで指定するパスは、nldeploymentアプリケーションで作成されるnlupdate.nluファイルなので重要ではありません。すでにnlupdate.nlu(拡張子を.txtと変更した)を作成しているアプリケーションで作成したものは使用できません。RAMP.cabと指定する(URLのファイル名はアプリケーションが使う)。

述を見ることになり
ます。
次へを押します。



カスタマイズ・ファイルの選択

RAMP.cabファイルに含めるカスタマイズ・ファイルを選択してください。

newlookの省略値を使用する場合は、下記が必要になります。

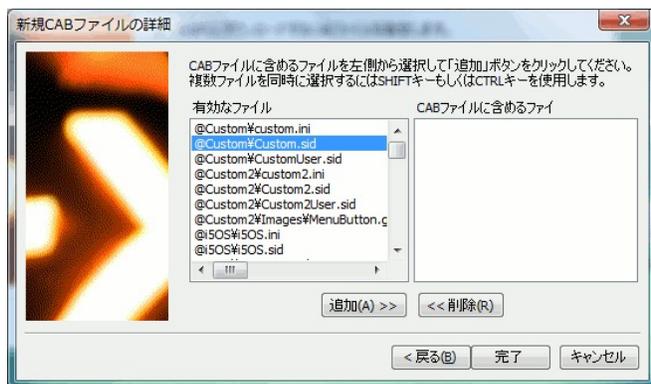
- newlook.ini
- newlook.sid
- VF_XP*.nlg file(s)

通常は上記の3つのファイルが必要になります。

newlookの画面にイメージを追加している場合、それらも追加する必要があります。

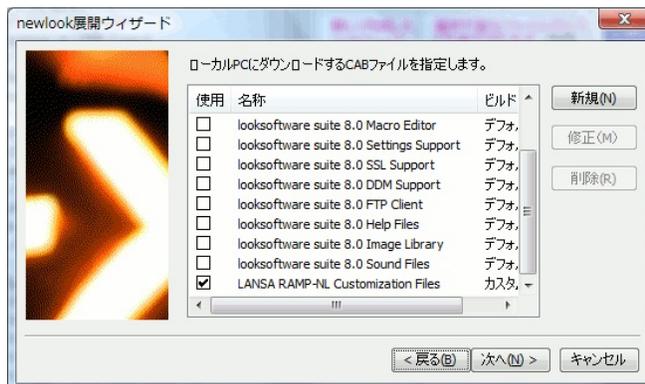
完了を押します。

ファイルを選択して追加>>ボタンをください。



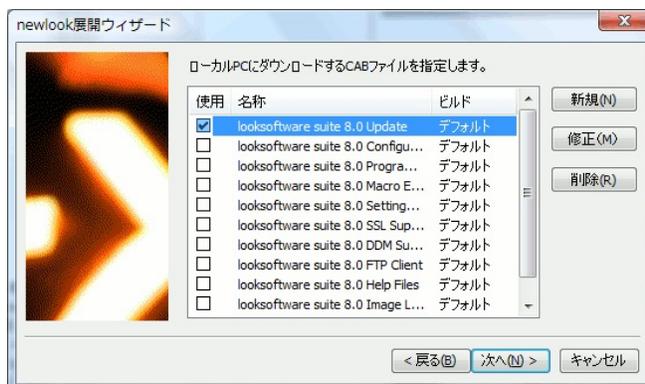
新しく作成したCABファイルを選択

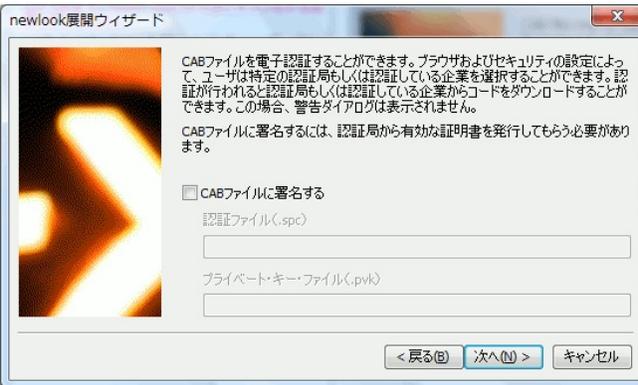
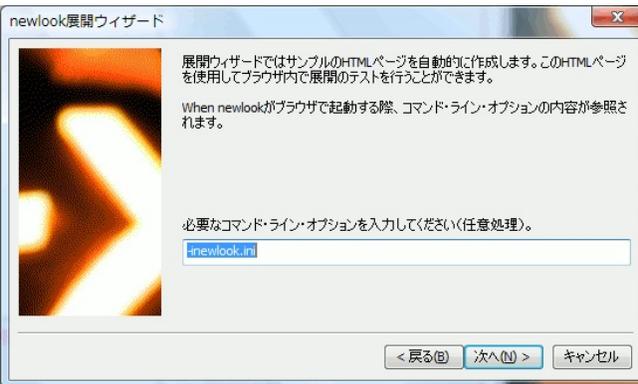
選択可能なファイルのリストが表示されます。作成した(LANSA RAMP-NL Customization Files)cabファイルを選択してください。

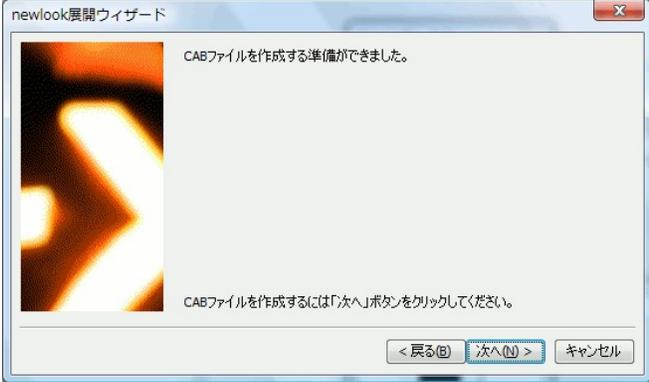


newlookのアップデートファイルを選択

looksoftware suite 8.0 Updatecabファイルも選択することをお勧めします。このファイルが必要のない場合でも、このチェックボックスをチェックすることで、cabファイルを作成する時にnlocx.dllが含まれないことを警告するメッセージを避けることができます。



<p>デジタルサインをcabファイルにしない</p>	<p>次へを押します。</p> <p>以下の画面でcabファイルにデジタルサインをすることができます。RAMP.cabファイルにサインをする必要はありません。</p> <p>WEB-RAMP: Step 2bでLook SoftwareウェブサイトからダウンロードしたCABファイルはサイン済みです。</p> <p>次へを押します。</p>	
<p>次へを押す</p>	<p>コマンドラインのオプションを無視して、次へを押します。</p>	
<p>CABファイルの生成の開始</p>	<p>これでRAMP.cabファイルを作成する準備ができました。</p> <p>次へを押します。</p>	

		
<p>CABファイルの作成が完了したことを示す画面を表示</p>	<p>Congratulationsの画面が表示されます。 完了を押します。</p>	
<p>RAMP.cab ファイルをウェブ・サーバーに移動</p>	<p>looksoftware 8.0 ディレクトリからウェブ・サーバー上の RAMP_Newlook フォルダに構成ファイル (RAMP.cab)を移動します。 nlupdate.nluを含む作成された他のファイルに注意が</p>	

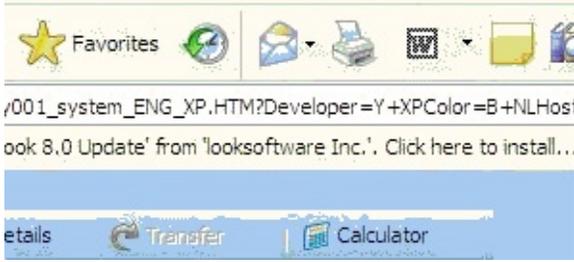
必要です。
nlupdate.nluファイルはダウンロードに必要な全ての情報を含んでいないため、ウェブ・サーバーに”コピーしない”ことが重要です。

WEB-RAMP-NL, Step 2d.コードベースおよび更新ファイルを指定

<p>newlook.cabおよびnlupdate.txtファイルへの参照を追加して、アプリケーションでnewlookがユーザーのPCにすでにインストールされているかどうかを確認され、インストールされていない場合は、WebサーバーにあるRAMP_Newlookフォルダーからダウンロードされるようにする必要があります。</p>	<p>それには、以下でコードベースおよび更新ファイルを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • サーバー定義またはアプリケーション実行時にはURL 	<p>フレームワークのサーバー定義で、次のように指定します。</p> <p>コードベース：RAMP_NewLook/newlook.cab#version=8, 更新ファイル：RAMP_NewLook/nlupdate.txt</p> <p>または、アプリケーションの実行時には、次のラメータを使用してコードベースおよび更新ファイルをURLに指定できます。</p> <pre>+NLCODEBASE= +NLUPDATEFILE=</pre>
---	---	---

EPC831より前のバージョンでは、コードベースおよび更新ファイルは、VF_SY120.jsファイルを修正して指定しました。

WEB-RAMP-NL, Step 2e.自動Web配布パッケージのテスト

<p>newlookがインストールされていないPCで配布テスト</p>	<p>newlookがインストールされていないPCで以下のテストをする必要があります。</p>	<p>警告： Web RAMP-NLアプリケーションのnewlook自動配布テストは、開発マシンで行うべきではありません"。</p> <p>1つのPCに複数のnewlookがインストールされることによるテストの混乱を防ぐ他に、開発設定を上書きするのを防止するためです。newlookがインストールされていない、クリーンなシステムでテストを始めるべきです。</p>
<p>RAMP-NLアプリケーションの実行</p>	<p>開発PC以外のPCのブラウザにRAMP-NLアプリケーションのURLを入力します。テストPCはnewlookがインストールされていないものを使用します。</p>	<p>RAMPの画面を最初に要求すると、VF_SY120.jsがnewlookの自動ダウンロードとインストールを開始します。</p> <p>newlookのActiveXコントロールをインストールするか否かが最初にプロンプトされます。セキュリティの警告にインストールをクリックします。</p>  <p>Internet Explorerに表示されるプロンプトに従います。実行中のWindowsのバージョンやその他の条件により、newlookのActiveXコントロールをインストールして良いかのいくつかのプロンプトを受け取る可能性があります。</p>

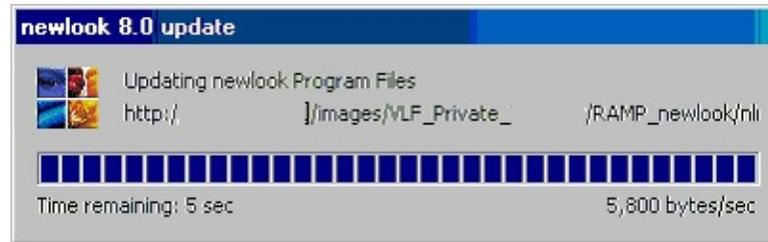
PCにnewlookがインストールされている場合は、アンインストールしてnlcleanを実行してください (WEB-RAMP, Step 4. 事後作業とその他の考慮点を参照ください)。



ActiveXClient.htmページに関連したどのようなセキュリティの警告に対してもインストールをクリックする必要があります。

looksoftware Incの名前が、セキュリティ警告の発行者のフィールドに表示されているはずですが。

ソフトウェアのインストールをクリックした後で、自動ダウンロード/インストール・プロセスは開始されます。他のCABファイルがダウンロードされている間に、newlook 8.0の更新ウィンドを見ることができます。



インストールと構成には約30秒かかります。これに時間がかかる場合は、通常はウェブ・サーバーかネットワーク接続に問題があります。

最初のテストのために、利用可能などのようなウェブ・サーバー(例えば、PC上のもの)を使っても構いません。しかし、本番環境のユーザー用のパッケージ自動配布には、特定のウェブ・サーバーを使用すべきです。

一度newlookがダウンロードされると、RAMPの画面がコマンドハンドラーに表示されます。

WEB1, Step 2. ソースシステムで配布物をパッケージに進みます。

WEB-RAMP-NL, Step 3. 配布パッケージにRAMP-NLのオブジェクトを追加

RAMP_Newlook フォルダから ファイルを組み 込む	Bnn_IFSセーブ・ ファイルに RAMP_Newlook フォルダの全て のファイルを組 み込みます。 <ul style="list-style-type: none">• Nlmain.cab• Newlook.cab• Nlupdate.txt• RAMP.cab	<p>newlook.cab - このCABファイルはnewlookのActiveXコントロール(nlocx.dll)とアップデート・プログラム(nlupdate.exe)をホストします。Internet Explorerは、未導入のユーザーPCにnewlook ActiveXコントロールをダウンロードしインストールするためにnewlook.cabファイルを使用します。</p> <p>nlmain.cab - このCABファイルはnewlookのプログラム群をホストします。通常では、多くのファイルが、セットアップ・プログラム(例 nl80.exe)を実行することでセットアップ・ウィザードによりインストールされます。</p> <p>nlupdate.nlu - このファイルはnewlookアップデート・プログラム(nlupdate.exe)に、ユーザーPCのどこに、newlookをインストールするためにカスタマイズしたCABファイルをどこから入手するかを指示します。</p> <p>RAMP.cab - このファイルはnewlook.sidとnewlook.ini構成ファイルを含みます。これらは特定のアプリケーションに固有のものであります。</p> <p>注記：RAMP.cabは、システムの変更(例として、新しい画面</p>
---	---	---

の識別)で影響があるオブジェクトを含むので、RAMP-NLのアプリケーションを変更した後で再配布する必要があります。

WEB1, Step 2. ソースシステムで配布物をパッケージに進みます。

WEB-RAMP-NL, Step 4. 事後作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
バックアップとリカバリー方針	ターゲットシステムで定期的なバックアップとリカバリーの方針を作成すべきです。		
保守方針	VLFアプリケーションの変更を配布する方法を工夫してください。		
newlook構成ファイルの変更をアップデート	RAMPアプリケーションに新しい5250画面の追加や、既存の画面のnewlook機能の変更を行う場合には、それらの変更が配布が必要なnewlook.sidファイルに反映されます。	<p>これを実施するには、WEB-RAMP-NL, Step 2c.RAMP.cabファイルを作成しRAMP_Newlookフォルダにコピーと全く同じステップでRAMP.cabファイルを再作成してください。</p> <p>RAMP.cabの中の1つのファイルを変更する場合でも、初回に組み込んだ他のファイルも組み込む必要があることに注意してください。新規あるいは既存のユーザーに、いつでも全てのファイルがRAMP.cabファイルに組み込まれている必要があるからです。</p> <p>再作成されたRAMP.cabファイルは、ユーザーがすぐにアクセスできるように、ウェブ・サーバーのRAMP_newlookディレクトリに移動することができます。</p> <p>注：上記の実装は、他の関連Visual LANSAフレームワークとRAMPのアップデートの実装と同時に行うようにしてください。</p>	

<p>newlook 構成 ファイルへの 変更の テスト</p>	<p>再インストールを何度も繰り返すことで、同じPCでもテストすることになります。</p>	<p>再インストールの前に、ダウンロードした newlook ファイルを削除し、newlook ActiveX コントロール(nlocx.dll)、ActiveX サーバー(nlsvr.exe)を抹消する必要があります。</p> <p>そのために、下記のステップを実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テストPCでnlclean.exeユーティリティを実行。このユーティリティはftp.looksoftware.com/distributor/tools/nlclean.exeで入手可能です。ユーティリティの個々の質問に"Y"と答えます。 2. テストPCのnewlookウェブダウンロードフォルダを削除(推奨する命名規則に則っている場合は、%Program Files%/LANSA Ramp newlook フォルダになります) <p>これらの後で、RAMPアプリケーションはnewlookを再インストールが必要なことを認識します。</p>
	<p>変更をテストする多くの方法があります。</p>	<p>以下は、初期インストールをテストし、変更をテストする1つの例です。</p> <p>ステップ1：RAMPアプリケーションでWEB-RAMP, Step 2e.自動Web配布パッケージのテストのステップを実行してください。</p> <p>ステップ2：newlookがインストールされていない新しいPCを使用して、適切なURLでアプリケーションにアクセスしてください。RAMPアプリケーションが実行できることを確かめてください。</p> <p>ステップ3：ダウンロードされた変更を確認するために、newlook.sidファイルにいくつかの変更を加えてください。例えば、newlookのRAMP画面の1つを変更(例としてフィールドの位置変更)して、newlook構成ファイルの変更をアップデートに記載されたステップを実行してください。URLに再度アクセスして、newlook.sidのダウンロードと、変更した画面が表示されるかをチェックして</p>

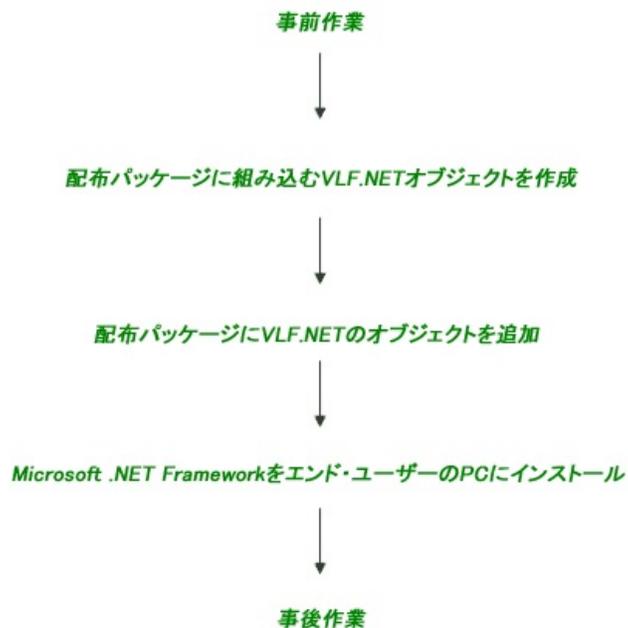
ください。

ステップ4：RAMPアプリケーションに追加された新規機能の全体テストを実施してください。これらのプロセスは、newlookで新しい画面を識別し、新しい画面をコリオグラファーを実行した新しいビジネスオブジェクトの作成を含みます。このテストで、newlookの変更とスクリプトが正しくエンドユーザーのブラウザにロードされたかを確認することができます。

注：newlookのアップデートをテストするときに、新規インストールで何か起きているかだけでなく、修正変更ファイルのダウンロードも確認してください。

チェックリスト/計画シート => WEB-NET

VLF.NETの配布方法



参照したいダイアグラムの場所でクリックしてください。

このチェックリストは[チェックリスト/計画シート => WEB1](#)、[チェックリスト/計画シート => WEB2A](#)または[チェックリスト/計画シート => WEB2B](#)と組み合わせて使用してください。

概要

フレームワークWebブラウザー・アプリケーションは、.NET実行可能ファイルとしてコンパイルできます。VLF.NET機能は、既存および新規のすべてのWAMフィルターとコマンド・ハンドラー、およびすべてのRAMP-NL画面とスクリプトをサポートします。

このチェック・リストは、VLF.NETアプリケーションの配布に必要な手順を概説しています。

WEB-NET, Step 1. 事前作業とその他の考慮点

< /tr>

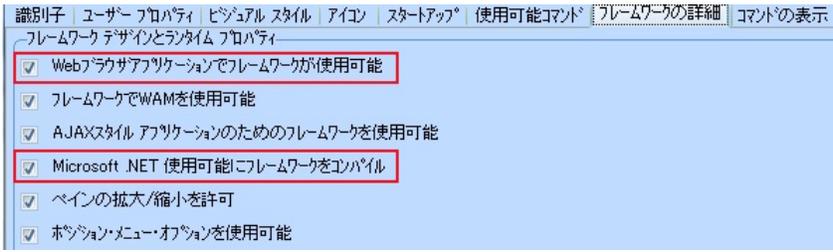
ステップ	必要な作業	方法	✓
VLF.NET機能が自身の環境に適していることの確認	<p>ユーザーが、ユーザー名とパスワードの入力を要求するプロキシ・サーバーの後方に存在する場合は、VLF.NET機能は使用できません。</p> <p>これは、Windows以外の統合認証を必要とするプロキシ・サーバー経由でのファイルのダウンロードを現時点でサポートしていない.NET ClickOnce配布テクノロジーの制限によるものです。</p>		
サポートされる最低限の構成(MSC: minimum supported configuration)の確立	<p>以下を含む、ユーザーのソリューションでサポートされる最低限の構成を正式に定義する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ハードウェア最小推奨要件 • ソフトウェア最小推奨要件 • 最低限のネットワーク機能 • 最低限のデータ 	<p>正式なMSC(サポートされる最低限の構成)により以下のことが可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ソリューション全体のコストに関する決定を通知する • ソリューションやこれに対するパッチ、ホットフィックスの配布時のテストに必要な環境を確立する ~ ~ ~ ~ 	

量～

- "MSC以下"のソリューションを導入する際のリスクを適切な経営レベルの人達に認識してもらう

詳細については、『Visual LANSA フレームワーク ガイド』の「[アプリケーションのパフォーマンス](#)」を参照してください。

WEB-NET, Step 2. 配布パッケージに組み込むVLF.NETオブジェクトを作成

ステップ	必要な作業	方法
<p>VLF.NET機能のアクティブ化</p>	<p>設計者としてフレームワークを開きます。</p> <p>[フレームワーク]->[プロパティ]メニュー・オプションを使用して、[フレームワークの詳細]タブを表示します。</p> <p>[Webブラウザアプリケーションでフレームワークが使用可能]オプションにチェックが入って</p>	 <p>識別子 ユーザー フォンティ ビジュアル スタイル アイコン スタートアップ* 使用可能コマンド* フレームワークの詳細 コマンドの表示</p> <p>フレームワーク デザインとランタイム フォンティ</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> Webブラウザアプリケーションでフレームワークが使用可能 <input checked="" type="checkbox"/> フレームワークでWAMを使用可能 <input checked="" type="checkbox"/> AJAXスタイル アプリケーションのためのフレームワークを使用可能 <input checked="" type="checkbox"/> Microsoft .NET 使用可能にフレームワークをコンパイル <input checked="" type="checkbox"/> ペインの拡大/縮小を許可 <input checked="" type="checkbox"/> ホウジョン・メニュー・オプションを使用可能

	<p>いることを確認します。</p> <p>[Microsoft .NET 使用可能にフレームワークをコンパイル]オプションにチェックを付けます。</p>	
<p>フレームワークの保存</p>	<p>フレームワークを保存し、.NET 実行可能ファイルとしてコンパイルします。</p>	<p>(フレームワーク)メニューのいずれかの[保存]ボタンを使用します。</p>

WEB-NET, Step 3. 配布パッケージにVLF.NETのオブジェクトを追加

<p>VLF.NET オブジェ クトを配 布パッ ケージに 組み込む</p>	<p>VLF.NET機能をアクティブにしたままフレームワークを保存すると、.NETファイルが追加で作成されます。</p> <p>言語ごとに、次の接尾辞の付いた4つのファイルが作成されます。</p> <ul style="list-style-type: none">• .application• .exe.manifest,• .framework.deploy• .app.exe.deploy <p>これらのファイルを配布パッケージに追加します。</p> <p>また、ファイルVF_WB001.HTMとVF_MULTI_YYY.jsも追加します。(YYYは言語コードになります。)</p>		
--	--	--	--

WEB-NET, Step 4. Microsoft .NET Frameworkをエンド・ユーザーのPCにインストール

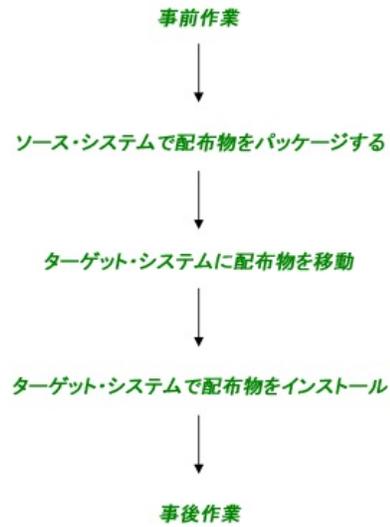
<p>Microsoft .NET Frameworkをエンド・ユーザーのPCにインストール</p>	<p>Microsoft .NET Framework 2.0以降および.NET Framework 2.0 Service Pack 1がエンド・ユーザーのPCにインストールされていることを確認します。</p> <p>.NET Framework 3.5が既にインストールされている場合は、.NET Framework 2.0 Service Pack 1を別途インストールする必要はありません。</p> <p>.NET Framework 2.0 Service Pack 1をVistaにインストールする際に、いくつかの問題点が報告されました。このような場合は、.NET Framework 3.5をインストールする必要があります。</p> <p>.NET 2.0ソフトウェア開発キット(SDK)は必要ありません。</p>		
--	--	--	--

WEB-NET, Step 5. 事後作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
セキュリティ証明書の設定や配布が必要かどうかの検討	『フレームワークガイド』の「 デジタル証明書 」を参照してください。		
バックアップとリカバリー方針	ターゲットシステムで定期的なバックアップとリカバリーの方針を作成すべきです。		
保守方針	VLFアプリケーションの変更を配布する方法を工夫してください。		

チェックリスト/計画シート => WIN1

ローカル・データベースにアクセスするスタンドアロンのVLF Windowsアプリケーションを配布する方法



参照したいダイアグラムの場所でクリックしてください。

概要

このチェックリストは、アプリケーションを独立したWindowsワークステーションにデータベースと共に配布するステップを示しています。

本番環境では一般的ではありませんが、チュートリアル、デモ、テストには有効です。

WIN1, Step 1. 事前作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
ターゲットシステムの必要ライセンス	なし		
フレームワーク・アプリケーションの配布の準備	配布準備が完了した実行可能なフレームワーク・アプリケーションが必要です。	詳細については、『フレームワークガイド』の「 フレームワーク・バージョンの配布 」を参照ください。	
サポートされる最低限の構成(MSC: minimum supported configuration)の確立	<p>以下を含む、ユーザーのソリューションでサポートされる最低限の構成を正式に定義する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ハードウェア最小推奨要件 • ソフトウェア最小推奨要件 • サポートされる画面解像度 • 最低限のネットワーク機能 • 最低限のデータ量 	<p>正式なMSC(サポートされる最低限の構成)により以下のことが可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ソリューション全体のコストに関する決定を通知する • ソリューションやこれに対するパッチ、ホットフィックスの配布時のテストに必要となる環境を確立する • "MSC以下"のソリューションを導入する際のリスクを経営陣に認識してもらう <p>詳細については、『Visual LANSA フレームワークガイド』の「アプリケーションのパフォーマンス」を参</p>	

照してください。

WIN1, Step 2. ソースシステムで配布物をパッケージ

アプリケーション配布の準備ができたなら、次のステップに従ってください。

ステップ	必要な作業	方法	✓
配布ツールの開始	Visual LANSAにログインして配布ツールを開始してください。	Visual LANSAを開始して配布したいアプリケーションを含むパーティションにログインしてください。 使用するユーザー・プロファイルが、配布オブジェクトに対する権限を持っているかどうか確認してください。 ツールメニューから、配布ツールコマンドを選択します。Visual LANSA配布ツールのメイン・ウィンドウが開きます。	
配布ツールのアプリケーションとパッケージを作成	配布ツールでアプリケーションとパッケージを作成してください。 テンプレートXSTNDALNをベースにしてください。	ツールバーのNewのボタンをクリックするか、アプリケーションメニューの新規作成コマンドを選択してください。 アプリケーションの明細を入力 OKをクリックします。パッケージを作成するためのプロンプトが表示されます。パッケージの詳細を入力してOKをクリックします。 パッケージのコントロールパネルが表示されます。	
配布オブ	パッケージの配布オブ	オプションボタンをクリッ	

<p>シヨンの設定</p>	<p>シヨンを自己解凍Zipに設定してください。 別の配布オプションを選択した場合は、このチェック・リストは機能しません。</p>	<p>クすると配布オプションのウインドーが表示されま す。</p>
<p>パッケージ設定の指定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • システム/区画定義の配布 • オブジェクト定義を含めない • LANSA実行環境の配布 • 実行環境データベース サポートの配布 • 実行環境アドオンの配布 • Visual LANSA サポートの配布 • EPC の配布 	<p>[パッケージの設定]ウインドウを表示するためにツールバーの[パッケージの設定]ボタンをクリックします。</p>
<p>スタートアップフォームの指定</p>	<p>アプリケーションを開始する名前を入力 UF_EXECが標準の開始フォームです。ほとんどの場合、開始するフォームを作成しているのでその名前を指定します。 正しいフレームワーク定義ファイルの開始フォームを指定する必要がある点に注意してください。詳細につい</p>	<p>実行の必須パラメーターのエリアでパラメーター、実行するフォーム (FORM=)をダブルクリックします。</p>

	<p>ては、『フレームワークガイド』の「フレームワーク・バージョンの配布」を参照ください。</p>		
<p>どのパラメータをプロンプトするか決定</p>	<p>パッケージがインストールされる時にセットアップ・パラメータをプロンプトしたい場合は、パラメータを選択してX_STARTのプロンプトあるいはセットアップ中のプロンプトのオプションをチェックしてください。</p>	<p>例えば、ターゲットのディレクトリをオプションにする場合は、パラメータをダブルクリックして表示されたウィンドウでセットアップ中のプロンプトのチェックボックスを選択してください。</p>	
<p>LANSAプログラムの追加</p>	<p>アプリケーションの全てのLANSAプログラムを追加</p> <p>Add forms starting with FP_*, UF_* and VF_*.</p> <p>Add reusable parts starting with FP_*, UF_* and VF_*.</p> <p>(デモンストレーションのシステムを実行したい場合は、DF_*で始まる全てのフォームと再利用可能パーツおよびプロセスDF_PROC、また必要な *.htm、*.bmp、*icon ファイルを組み込んでください)</p> <p>プロセスVF_PR001とUF_SYSBRをファンクションと共に組み込んでください。</p>	<p>リポジトリオブジェクトの選択ボタンをクリックします。組み込みたいオブジェクトを右側のエリアにドラッグしてください。</p> <p>次に右側の全てのオブジェクトを選択して、選択したコンポーネントの上の相互参照のアイコンを選択してください。新しいダイアログが開いて、クロスリファレンスの設定を選択することができます。</p> <p>必要な全てのオブジェクトタイプが選択されていることを確認してください。</p>	

<p>フレームワーク・ファイルの追加</p>	<p>エンドユーザがVFPPF06/07のDBMSテーブルのユーザ情報を保管する場合は、それらを組み込む必要があります。</p> <p>コードテーブルを使用する場合は、コードテーブル・データファイルFPTABを組み込んでください。</p>	<p>他オブジェクト・オプション・タブを表示します。</p> <p>ファイルをクリックします。</p> <p>ファイルを選択し、OKを押してください。</p>
<p>他のフレームワークオブジェクトの追加</p>	<p>区画の実行ディレクトリ（例えば、C:\Program Files\LANSA\X_WIN95\X_LANSA\x_DEM\execute）でXMLファイルを探します。</p> <p>以下のファイルをパッケージに追加します(フレームワークの定義ファイルを別の名前で保管している場合は、相当するXMLファイルを追加してください)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • vf_sy001_system.xml • vf_sy001_users.xml (使用している場合) • vf_sy001_servers.xml • vf_sy001_tables.xml <p>U_bif987.dllとu_bif985.dllをX_LANSA Executeディレクトリから追加してください。</p> <p>省略値の仮想クリップボードの内容を配布したい場合は、VF_Framework_Virtual_Clipboard_Default.dat、あるいはVF_User_Virtual_Clipboard_Default.datの一方か両方を選択してください。</p>	<p>他オブジェクト・オプション・タブを表示します。</p> <p>LANSA以外のオブジェクトをダブルクリックして選択します。現在使用しているLANSAシステムをダブルクリックして選択してください。</p> <p>配布ツールボックスでは現在使用しているシステムや[]がないため、追加する必要があります。</p> <p>オブジェクトを選択し、OKを押してオブジェクトをインストールしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • U_bif987.dll u_bif985.dll ツールボックス IDSYSPAT

		<p>実行ディレクトリを使用して、オブジェクトをダウンロードします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DFTPART Path Id(例 *PART_ID)を使用します。 	
<p>自分のオブジェクトを組み込む</p>	<p>アプリケーションの中の自分のオブジェクト(フィルター、コマンドハンドラー他)、多国語変数、システム変数、メッセージファイル、プロセス、ファンクション、イメージなどを追加してください。</p>	<p>ツールバーのリポジトリオブジェクトの選択ボタンをクリックします。</p> <p>全てのLANSA以外のオブジェクトが、ターゲットマシンの正しいインストールパスに設定されていることを確認してください。</p>	
<p>ファイルのデータを組み込む</p>	<p>選択したファイルのデータを組み込みます。</p> <p>通常は、テーブルVFPPF06/07の開発ユーザデータを出荷しないことに注意してください。</p> <p>しかし、ターゲットの環境で誰もUF_DESGNが使用できず、フレームワークがセキュリティのスイッチがオンである場合には、1つの管理ユーザーを出荷すべきです。管理者のプロファイルはターゲットのサーバに存在</p>	<p>全てのファイルを選択してファイルデータボタンをクリックしてください。</p> <p>データ列の表示が変わり、ファイルがデータと共にパッケージに組み込まれることを示します。</p>	

	<p>するか、作成する必要があります。</p> <p>ユーザーがターゲットの環境でUF_DESGNにアクセスする必要がある場合、ファイルはデータなしで出荷することができ、UF_DESGNのユーザーはVFPPF06/07に管理者を登録することができます。その後、管理者はUF_ADMINを使ってユーザーを登録できます。</p>		
<p>アイコンの追加</p>	<p>ターゲットマシンに、パッケージがインストールされる時に作成するショートカットに使用されるアイコンを追加してください。</p>	<p>パッケージ制御パネルのツールバーのアプリケーションアイコンボタンをクリックしてください。アイコンを選択してください。</p>	
<p>Adaptive Server Anywhere データベースの組み込みオプション</p>	<p>LANSAがインストールされていないPCにアプリケーションが配布される場合、配布パッケージにAdaptive Server Anywhereデータベースシステムが組み込まれる必要があります。</p>	<p>ASA設定ボタンをクリックして、Adaptive Server Anywhereのイメージ (SQLANYW.ENG)を見つけてください。</p> <p>Adaptive Server Anywhereのイメージを組み込むために、それはVisual LANSAのインストール中にインストールされる必要があります。</p> <p>イメージが見付けられない場合は、Visual LANSAのカスタムインストールを実行し、SQL Anywhereの配布イ</p>	

		メッセージ・オプションを選択してください。	
パッケージの保管	定義を保存してください。		
パッケージの作成	<p>クリックしてパッケージを作成してください。</p> <p>アプリケーション・パッケージはX_PKGSに作成されます（例えば、C:\Program Files\LANSA\X_WIN95\X_LANSA\X_PKGS）。</p>	<p>オプションメニューでパッケージのチェックオプションを選択します。エラーが見つからなかったというメッセージでなければなりません。</p> <p>生成ボタンをクリックします。</p> <p>パッケージのコンパイルが完了するまで待ちます。</p> <p>使用中のパーティションで、全てのRDMLXが利用可能になっていないと、いくつかのdllのコピーが失敗したとい</p>	

うメッセージ
が表示され
ることに注
意してくだ
さい。
メッセージ
を無視して
ください。

WIN1, Step 3. ターゲットシステムに配布物を移動

ステップ	必要な作業	方法	✓
ターゲットシステムへ配布物を移動	パッケージ・フォルダの自己解凍Zipファイル(packagename.exe)をCDやネットワーク・サーバーなどのメディアにコピーしてください。 (注記：パッケージ・ディレクトリの全部をコピーしないでください。)		

WIN1, Step 4. ターゲットシステムで配布物をインストール

ステップ	必要な作業	方法	✓
配布物をインストール	<p>パッケージの.EXEファイルを実行してパッケージをインストールしてください。</p> <p>WinZipの自己解凍機能(WinZip製品のライセンスとは別)がパッケージを作成したマシンにインストールされている場合は、アプリケーションが自動的にインストールされます。</p> <p>インストールが完了すると、デスクトップの設定により、アプリケーションのスタートアップ・フォルダーが作成されます。</p> <p>セットアップ・プログラムにより、フレームワークが自動的に起動します。フレームワークの最初の起動時に、実行ファイルがコピーされフレームワークが表示されます。</p> <p>アプリケーションが利用可能になります。</p> <p>インストール中に問題が生じた場合は、パッケージをインストールしているディレクトリのdpinstal.logとテンポラ</p>		

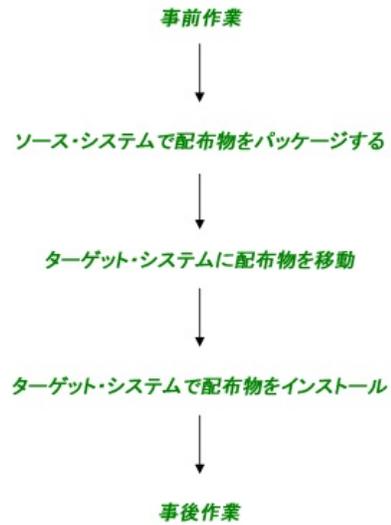
リ・ディレクトリのロ
グをチェックしてくだ
さい。

WIN1, Step 5. 事後作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
セキュリティの考慮事項	<p>セキュリティの観点から、いくつかの重要ファイルは読み取りのみの設定を考慮してください。</p> <p>例えば、配布されたシステムXML定義ファイルは、ファイルの内容を不用意にエンドユーザーが編集することを避けるために読み取りのみに設定すべきです。</p>		
バックアップとリカバリー方針	<p>ターゲットシステムで定期的なバックアップとリカバリーの方針を作成すべきです。</p>		
保守方針	<p>VLFアプリケーションの変更を配布する方法を工夫してください。</p>		

チェックリスト/計画シート => WIN2

VLFクライアント/サーバー・アプリケーションのクライアント側をiSeriesまたはWindowsの
リモート・データ・サーバーにアクセスするワークステーションに配布する方法

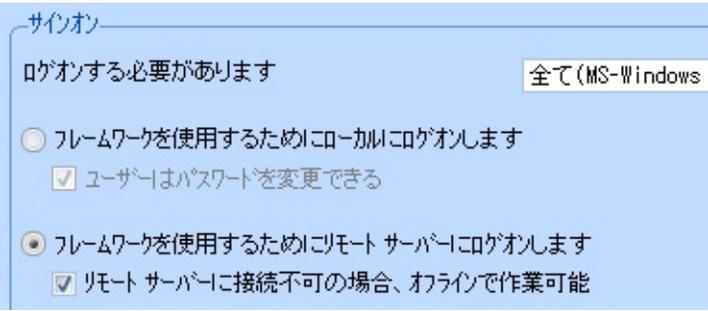


参照したいダイアグラムの場所でクリックしてください。

概要

このチェックリストは、フレームワークのリッチクライアント/サーバー・アプリケーションが、IBM i あるいはWindowsのリモート・データ・サーバーにアクセスする際の、クライアント側の配布のステップを示しています。

WIN2, Step 1. 事前作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
ターゲットシステムの必要ライセンス	なし		
開発システムでリモート・サーバーへサインオンするための、フレームワークのセットアップ	必要なユーザーが、リモート・サーバーにサインオンするための、フレームワークをセットアップします。	<p>フレームワークのプロパティを表示して、ユーザー管理設定のタブを選択してください。</p> <p>サインオンで、全て(<i>MS-Windows</i>とブラウザ)を選択し、フレームワークを使用するためにリモートサーバーにログオンしますを選択してください。</p> 	
配布時にフレームワークが接続するサーバーの定義	フレームワーク定義に、クライアントのアプリケーションが接続するサーバーの定義を組み込む必要があります。	管理メニューのサーバー・オプションを選択して、サーバーが定義されていることを確認してください。	

パッケージをインストールした後ターゲット・マシンのサーバー設定を変更したい場合は、UF_ADMINフォームを配布して実行する必要があります。

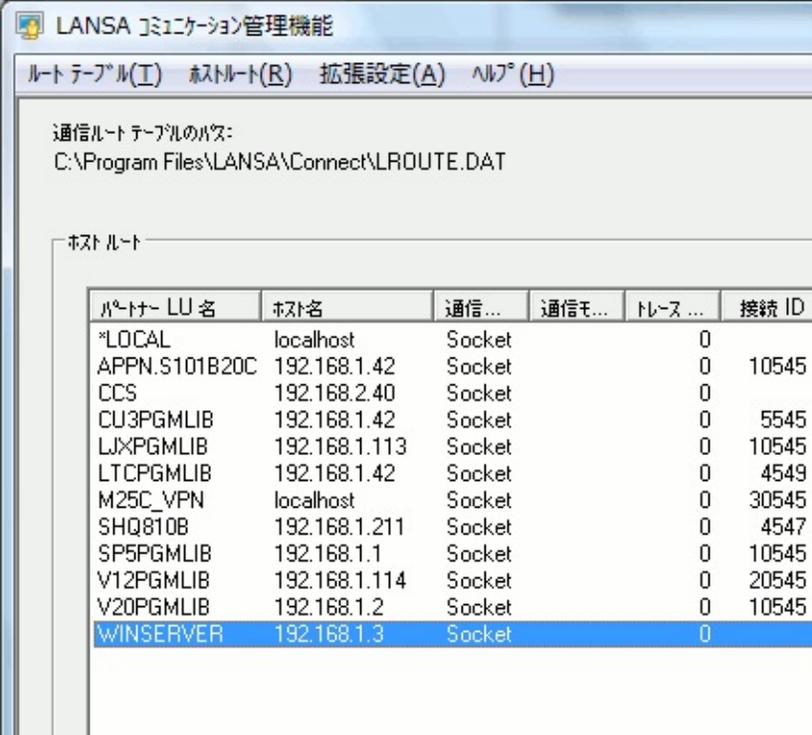
『フレームワークガイド』のサーバー定義の配布を参照してください。

Windowsサーバーの場合は、クライアントが接続するデータベースの詳細を指定する必要があることに注意してください。

サーバー タイプ:	LANSA for Windows
サーバー名:	WINSERVER
区画	DEM
クライアント → サーバー変換テーブル:	QEBCDIC
サーバー → クライアント変換テーブル:	QASCII
選択ブロック サイズ:	50
選択制限:	10000
WindowsまたはUnixのデータベース	
データベース名:	LX_LANSA
データベース ユーザー:	DBA
データベース パスワード:	SQL
データベース タイプ:	ASA (全てのIntelプラットフォーム)
サーバー オーバーライド:	

RAMP-TSアプリケーションを配布している場合は、RAMP-TSサーバーを配布サーバーにして、その詳細も指定する必要があります。プライベート定義フォルダーはターゲット・システムに作成するアプリケーション・フォルダーです。

RAMP-TS (ターミナル サーバー)	
配布サーバーとして保存	<input checked="" type="checkbox"/>
IP アドレス	
ポート番号	8134
実行モード ルートパス	/ts/skins/
RAMPツールモード ルートパス	/ts/dev/
プライベート定義フォルダ	myapplication1
RAMP-TS ツールのインストールと構成をテスト	

<p>LANSA コミュニ ケーション 管理機能 で サー バーを 定義</p>	<p>サーバー詳 細タブの LANSAコ ミュニケー ション管理 機能ボタン をクリック してくださ い。</p>	<p>サーバーを定義:</p>  <table border="1" data-bbox="690 703 1421 1060"> <thead> <tr> <th>ホスト名</th> <th>通信...</th> <th>通信モ...</th> <th>トリス...</th> <th>接続 ID</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>*LOCAL</td> <td>localhost</td> <td>Socket</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>APPN.S101B20C</td> <td>192.168.1.42</td> <td>Socket</td> <td>0</td> <td>10545</td> </tr> <tr> <td>CCS</td> <td>192.168.2.40</td> <td>Socket</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>CU3PGMLIB</td> <td>192.168.1.42</td> <td>Socket</td> <td>0</td> <td>5545</td> </tr> <tr> <td>LJXPGMLIB</td> <td>192.168.1.113</td> <td>Socket</td> <td>0</td> <td>10545</td> </tr> <tr> <td>LTCPGMLIB</td> <td>192.168.1.42</td> <td>Socket</td> <td>0</td> <td>4549</td> </tr> <tr> <td>M25C_VPN</td> <td>localhost</td> <td>Socket</td> <td>0</td> <td>30545</td> </tr> <tr> <td>SHQ810B</td> <td>192.168.1.211</td> <td>Socket</td> <td>0</td> <td>4547</td> </tr> <tr> <td>SP5PGMLIB</td> <td>192.168.1.1</td> <td>Socket</td> <td>0</td> <td>10545</td> </tr> <tr> <td>V12PGMLIB</td> <td>192.168.1.114</td> <td>Socket</td> <td>0</td> <td>20545</td> </tr> <tr> <td>V20PGMLIB</td> <td>192.168.1.2</td> <td>Socket</td> <td>0</td> <td>10545</td> </tr> <tr style="background-color: #e0f0ff;"> <td>WINSERVER</td> <td>192.168.1.3</td> <td>Socket</td> <td>0</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	ホスト名	通信...	通信モ...	トリス...	接続 ID	*LOCAL	localhost	Socket	0		APPN.S101B20C	192.168.1.42	Socket	0	10545	CCS	192.168.2.40	Socket	0		CU3PGMLIB	192.168.1.42	Socket	0	5545	LJXPGMLIB	192.168.1.113	Socket	0	10545	LTCPGMLIB	192.168.1.42	Socket	0	4549	M25C_VPN	localhost	Socket	0	30545	SHQ810B	192.168.1.211	Socket	0	4547	SP5PGMLIB	192.168.1.1	Socket	0	10545	V12PGMLIB	192.168.1.114	Socket	0	20545	V20PGMLIB	192.168.1.2	Socket	0	10545	WINSERVER	192.168.1.3	Socket	0	
ホスト名	通信...	通信モ...	トリス...	接続 ID																																																															
*LOCAL	localhost	Socket	0																																																																
APPN.S101B20C	192.168.1.42	Socket	0	10545																																																															
CCS	192.168.2.40	Socket	0																																																																
CU3PGMLIB	192.168.1.42	Socket	0	5545																																																															
LJXPGMLIB	192.168.1.113	Socket	0	10545																																																															
LTCPGMLIB	192.168.1.42	Socket	0	4549																																																															
M25C_VPN	localhost	Socket	0	30545																																																															
SHQ810B	192.168.1.211	Socket	0	4547																																																															
SP5PGMLIB	192.168.1.1	Socket	0	10545																																																															
V12PGMLIB	192.168.1.114	Socket	0	20545																																																															
V20PGMLIB	192.168.1.2	Socket	0	10545																																																															
WINSERVER	192.168.1.3	Socket	0																																																																

<p>フレーム ワーク・ アプリ ケーショ ンの配布 の準備</p>	<p>配布準備が完了した実 行可能なフレームワー ク・アプリケーション が必要です。</p>	<p>詳細については、『フレ ームワークガイド』の「フ レームワーク・バージョ ンの配布」を参照ください。</p>
--	--	---

<p>サポートさ れる最低限 の構成(MSC: minimum supported configuration) の確立</p>	<p>以下を含む、ユーザー のソリューションでサ ポートされる最低限の 構成を正式に定義する 必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ハードウェア最 小推奨要件 • ソフトウェア最 	<p>正式なMSC(サポートされ る最低限の構成)により以 下のことが可能になりま す。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ソリューション全体 のコストに関する決定 を通知する • ソリューションやこ
--	--	--

小推奨要件

- サポートされる画面解像度
- 最低限のネットワーク機能
- 最低限のデータ量

れに対するパッチ、ホットフィックスの配布時のテストに必要となる環境を確立する

- "MSC以下"のソリューションを導入する際のリスクを経営陣に認識してもらう

詳細については、『Visual LANSA フレームワーク ガイド』の「[アプリケーションのパフォーマンス](#)」を参照してください。

WIN2, Step 2. ソースシステムで配布物をパッケージ

アプリケーション配布の準備ができたなら、次のステップに従ってください。

ステップ	必要な作業	方法	✓
配布ツールの開始	Visual LANSAにログインして配布ツールを開始してください。	Visual LANSAを開始して配布したいアプリケーションを含むパーティションにログインしてください。 使用するユーザー・プロファイルが、配布オブジェクトに対する権限を持っているかどうか確認してください。 ツールメニューから、配布ツールコマンドを選択します。Visual LANSA配布ツールのメイン・ウィンドウが開きます。	
配布ツールのアプリケーションとパッケージを作成	配布ツールでアプリケーションとパッケージを作成してください。 テンプレートを使用しないでください。	ツールバーのNewのボタンをクリックするか、アプリケーションメニューの新規作成コマンドを選択してください。 アプリケーションの明細を入力 OKをクリックします。パッケージを作成するためのプロンプトが表示されます。 パッケージの詳細を入力してOKをクリックします。 パッケージのコントロールパネルが表示されます。	
配布オブ	パッケージの配布オブ	オプションボタンをクリッ	

<p>シヨンの設定</p>	<p>シヨンを自己解凍Zipに設定してください。 別の配布オプションを選択した場合は、このチェック・リストは機能しません。</p>	<p>クすると配布オプションのウインドーが表示されま す。</p>
<p>パッケージ設定の指定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • データベースがないクライアントへ配布 • システム/区画定義の配布 • オブジェクト定義を含めない • LANSA実行環境の配布 • Visual LANSA サポートの配布 • LANSA コミュニケーション機能の配布 • EPC の配布 	<p>パッケージの設定ウインド を表示するためにツール バーのパッケージの設定ボ タンをクリックします。</p>
<p>リモート データ ベースを 利用する ためにア プリーケー ションを 構成</p>	<p>リモート・データベー スにアクセスする配布 のため、アプリーケー ションが特定のデータ ベースを使用しないよ うに構成する必要があります。 データベース セクションで、データ ベースオプションをNo に設定して、DBMSタ イプ(DBUT=)をデータ ベースなしを指定しま す。</p>	<p>DBMSタイプ(DBUT=)パラ メータをダブルクリックし てください。</p>

<p>接続の振る舞いを定義</p>	<p>コミュニケーションとスーパーサーバーセッションの省略値をそのままにします。</p>		
<p>スタートアップフォームの指定</p>	<p>アプリケーションを開始する名前を入力 UF_EXECが標準の開始フォームです。ほとんどの場合、開始するフォームを作成しているのでその名前を指定します。</p> <p>正しいフレームワーク定義ファイルの開始フォームを指定する必要がある点に注意してください。詳細については、『フレームワークガイド』の「フレームワーク・バージョンの配布」を参照ください。</p>	<p>実行の必須パラメータのエリアでパラメーター、実行するフォーム (FORM=)をダブルクリックします。</p>	
<p>どのパラメータをプロンプトするか決定</p>	<p>パッケージがインストールされる時にセットアップ・パラメータをプロンプトしたい場合は、パラメータを選択してX_STARTのプロンプトあるいはセットアップ中のプロンプトのオプションをチェックしてください。</p>	<p>例えば、ターゲットのディレクトリをオプションにする場合は、パラメータをダブルクリックして表示されたウィンドでセットアップ中のプロンプトのチェックボックスを選択してください。</p>	
<p>LANSAプログラム</p>	<p>アプリケーションの全てのLANSAプログラム</p>	<p>リポジトリオブジェクトの選択ボタンをクリックしま</p>	

<p>の追加</p>	<p>を追加</p> <p>Add forms starting with FP_*, UF_* and VF_*.</p> <p>Add reusable parts starting with FP_*, UF_* and VF_*.</p> <p>(デモンストレーションのシステムを実行したい場合は、DF_*で始まる全てのフォームと再利用可能パーツおよびプロセスDF_PROC、および必要な *.htm、*.bmp、*.icon ファイルを組み込んでください)</p> <p>プロセスVF_PR001とUF_SYSBRをファンクションと共に組み込んでください。</p>	<p>す。組み込みたいオブジェクトを右側のエリアにドラッグしてください。</p> <p>次に右側の全てのオブジェクトを選択して、選択したコンポーネントの上の相互参照のアイコンを選択してください。新しいダイアログが開いて、クロスリファレンスの設定を選択することができます。</p> <p>必要な全てのオブジェクトタイプが選択されていることを確認してください。</p>
------------	---	--

<p>他のフレームワークオブジェクトの追加</p>	<p>区画の実行ディレクトリ (例えば、C:\Program Files\LANSA\X_WIN95\X_LANSA\x_DEM\execute) でXMLファイルを探します。</p> <p>以下のファイルをパッケージに追加します(フレームワークの定義ファイルを別の名前で保管している場合は、相当するXMLファイルを追加してください)。</p> <ul style="list-style-type: none"> • vf_sy001_system.xml • vf_sy001_users.xml (使用している場合) • vf_sy001_servers.xml • vf_sy001_tables.xml <p>RAMP-TSアプリケーションを配布している場合は、VF_SY001_nodes.xmlファイル、それに対応するVF_SY001_nodes*.jsファイルおよび<framework_name>_eng.jsファイルを追加します。</p>	<p>他オプションを示します。</p> <p>LANSA以外のオブジェクトをダブルクリックして選択してはなりません。現在使用しているLANSAシステムであることを確認してください。</p> <p>配布ツールキットでは現在使用しているシステムや[]されないため、する必要があり、オブジェクトを選択してOKを押してオブジェクト</p>
---------------------------	---	--

	<p>U_bif987.dllとu_bif985.dllをX_LANSA Executeディレクトリから追加してください。</p> <p>省略値の仮想クリップボードの内容を配布したい場合は、VF_Framework_Virtual_Clipboard_Default.dat、あるいはVF_User_Virtual_Clipboard_Default.datの一方か両方を選択してください。</p>	<p>ツールされる してください</p> <ul style="list-style-type: none"> U_bif98 u_bif985.c ツール・ IDSYSPA ください。 ジェクト DFTPA Path Id(例 *PART_D を使用し
--	---	---

<p>クライアント側のオブジェクトの組み込み</p>	<p>アプリケーションの中のクライアント側の自分のオブジェクト(フィルター、コマンドハンドラー、開始フォーム他)、多国語変数、システム変数、メッセージファイル、ファイル、プロセス、ファンクション、イメージなどを追加してください。</p>	<p>ツールバーのリポジトリオブジェクトの選択ボタンをクリックします。</p> <p>全てのLANSA以外のオブジェクトが、ターゲットマシンの正しいインストールパスに設定されていることを確認してください。</p>
----------------------------	--	--

<p>アイコンの追加</p>	<p>ターゲットマシンに、パッケージがインストールされる時に作成するショートカットに使用されるアイコンを追加してください。</p>	<p>パッケージ制御パネルのツールバーのアプリケーションアイコンボタンをクリックしてください。アイコンを選択してください。</p>
----------------	---	---

<p>デスクトップの設定</p>	<p>デスクトップの設定を必要に応じて選択してください。</p>	<p>例えば、以下のオプションが上げられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> アプリケーションフォルダの作成
------------------	----------------------------------	---

		<ul style="list-style-type: none"> • コミュニケーション管理機能のショートカットの作成 • ライセンスの保守のショートカット作成 • ODBC アドミニストレーションのショートカットの作成 	
RAMP-NL オブジェクトの組み込み	IBM i サーバーに接続するRAMP-NLクライアントを配布する場合は、RAMPオブジェクトをパッケージに加える必要があります。	チェックリスト/計画シート => WIN-RAMP-NL に従ってください。	
パッケージの保管	定義を保存してください。		
アプリケーションにホストルートを組み込む	パッケージにホストルートとしてサーバー定義(lroute.datファイル)を組み込んでください。	<p>Visual LANSA配布ツールメインウィンドから、アプリケーションを選択してコミュニケーション管理のツールバーボタンをクリックしてください。</p> <p>LANSAコミュニケーション管理機能が表示されます。ステップ1で定義したサーバのエントリーがあることを確認してください。</p> <p>LANSAコミュニケーション管理機能を閉じてください。アプリケーションが選択されていることを確認してから、アプリケーションメニューをクリックして、パッケージコミュニケー</p>	

ション管理オプションを選択してください。

パッケージの作成

クリックしてパッケージを作成してください。
アプリケーション・パッケージはX_PKGSに作成されます（例えば、C:\Program Files\LANSA\X_WIN95\X_LANSA\X_PKGS）。

オプションメニューでパッケージのチェックオプションを選択します。エラーが見つからなかったというメッセージでなければなりません。
生成ボタンをクリックします。
パッケージのコンパイルが完了するまで待ちます。
使用中のパーティションで、全てのRDMLXが利用可能になっていないと、いくつかのdllのコピーが失敗したというメッセージが表示されることに

注意してく
ださい。
メッセージ
を無視して
ください。

WIN2, Step 3. ターゲットシステムに配布物を移動

ステップ	必要な作業	方法	✓
ターゲットシステムへ配布物を移動	パッケージ・フォルダの自己解凍Zipファイル(packagename.exe)をCDやネットワーク・サーバーなどのメディアにコピーしてください。 (注記：パッケージ・ディレクトリの全部をコピーしないでください。)		

WIN2, Step 4. ターゲットシステムで配布物をインストール
警告：開発システムで配布パッケージのテストをしないでください。

ステップ	必要な作業	方法	✓
サーバー・システムのセットアップ	クライアント側の配布パッケージのインストールを始める前に、サーバー側のアプリケーションを配布する必要があります。		
リスナー	サーバーでリスナーが稼動していることを確認してください。		
配布物をインストール	<p>パッケージの.EXEファイルを実行してパッケージをインストールしてください。</p> <p>WinZipの自己解凍機能(WinZip製品のライセンスとは別)がパッケージを作成したマシンにインストールされている場合は、アプリケーションが自動的にインストールされます。</p> <p>インストールが完了すると、デスクトップの設定により、アプリケーションのスタートアップ・フォルダーが作成されます。</p> <p>セットアップ・プログラムにより、フレームワークが自動的に起動</p>		

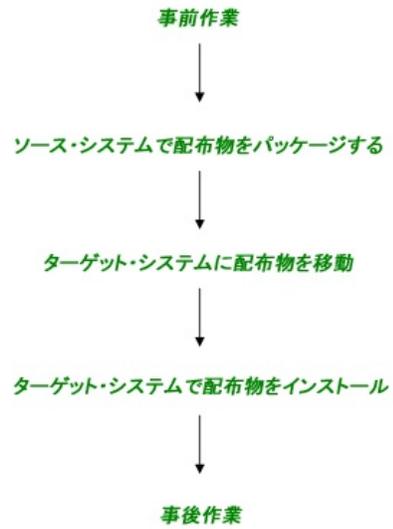
	<p>します。フレームワークの最初の起動時に、実行ファイルがコピーされフレームワークが表示されます。</p> <p>アプリケーションが利用可能になります。</p> <p>インストール中に問題が生じた場合は、パッケージをインストールしているディレクトリのdpinstal.logとテンポラリ・ディレクトリのログをチェックしてください。</p>		
<p>オプションでRAMP-NLをインストール</p>	<p>RAMP-NLアプリケーションをインストールしている場合は、WIN-RAMP-NL, Step 3. ターゲットシステムで配布物をインストールのステップに従ってください。</p>		
<p>RAMP-TSアプリケーションを配布している場合は、IEの設定を確認</p>	<p>RAMP-TSが使用されている全てのPCのIEの設定を確認します。</p>	<p>『RAMP-TSガイド』の「Internet Explorerのセキュリティ設定の確認」を参照してください。</p>	

WIN2, Step 5. 事後作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
<p>セキュリティの考慮事項</p>	<p>セキュリティの観点から、いくつかの重要ファイルは読み取りのみの設定を考慮してください。</p> <p>例えば、配布されたシステムXML定義ファイルは、ファイルの内容を不用意にエンドユーザーが編集することを避けるために読み取りのみに設定すべきです。</p>		
<p>バックアップとリカバリー方針</p>	<p>ターゲットシステムで定期的なバックアップとリカバリーの方針を作成すべきです。</p>		
<p>保守方針</p>	<p>VLFアプリケーションの変更を配布する方法を工夫してください。</p>		

チェックリスト/計画シート => WIN3

VLFクライアント/サーバー・アプリケーションのサーバー側をiSeriesサーバーに配布する方法



参照したいダイアグラムの場所でクリックしてください。

概要

このチェックリストは、フレームワークのリッチクライアント/サーバー・アプリケーションを、IBM i サーバーに配布するステップを示しています。

WIN3, Step 1. 事前作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
ターゲットシステムの必要ライセンス	スーパーサーバー・ライセンス	詳細は http://www.lansa.jp/index.htm を参照ください。	
サポートされる最低限の構成(MSC: minimum supported configuration)の確立	<p>以下を含む、ユーザーのソリューションでサポートされる最低限の構成を正式に定義する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ハードウェア最小推奨要件 • ソフトウェア最小推奨要件 • サポートされる画面解像度 • 最低限のネットワーク機能 • 最低限のデータ量 	<p>正式なMSC(サポートされる最低限の構成)により以下のことが可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ソリューション全体のコストに関する決定を通知する • ソリューションやこれに対するパッチ、ホットフィックスの配布時のテストに必要な環境を確立する • "MSC以下"のソリューションを導入する際のリスクを経営陣に認識してもらう <p>詳細については、『Visual LANSA フレームワーク ガイド』の「アプリケーションのパフォーマンス」を参照してください。</p>	

WIN3, Step 2. ソースシステムで配布物をパッケージ

ステップ	必要な作業	方法	✓
ビルド番号の割り当て	リリースする実行環境のビルド番号nnを割り当ててください。その番号は以下のステップでファイルの命名規則で使用します。		
LANSA以外のオブジェクトの組み込み	<p>アプリケーションがLANSA以外のオブジェクトを必要とする場合は、それらを含むセーブファイルを作成してください。LANSA以外のオブジェクトは:</p> <ul style="list-style-type: none"> • RPGプログラム • DDSファイル • COBOLプログラム • DB2ファイル • データ・エリア • データ・キュー 	<p>IBM i のLANSA以外のオブジェクトを含むBnn_OM1、Bnn_OM2、他のIBM i セーブファイルを必要に応じて作成してください。</p> <p>全てのLANSA以外のオブジェクトをセーブファイルBnn_OM1、2、3、...nにSAVOBJコマンドで保管してください。</p>	
RAMP-TSオブジェクトの組み込み	RAMP-TSアプリケーションを配布している場合は、配布パッケージにさらにファイルを追加する必要があります。	<p>「WIN-RAMP-TS, Step 2. 配布用にRAMP-TS画面定義を準備」を参照してください。</p>	
IBM i のエクスポート・リストを	Bnn_ALLという名前のLANSAエクスポート・リストを作成してください。	システム保守メニューでエクスポート・リストの処理オプションを使ってエクスポート・リストを作成して	

作成		ください。	
エクスポートリストにサーバー側のLANSAオブジェクトを登録	サーバー側のLANSAオブジェクトだけを追加してください。	エクスポート・リストの処理メニューのオプションを使用して、アプリケーションで使用する全てのオブジェクトがエクスポート・リストに登録されていることを確認してください。	
エクスポート・リストへのセーブファイルの組み込み	エクスポート・リストに作成した保管ファイルを追加してください。	オプション外部オブジェクト(LANSA以外)のリスト登録を使用します。 ファイルの検索にはF20を使用します。	
フレームワーク・ファイルの追加	エンドユーザーがVFPPF06/07のDBMSテーブルのユーザー情報を保管する場合は、それらを組み込む必要があります。 コードテーブルを使用する場合は、コードテーブル・データファイルFPTABを組み込んでください。	オプション外部オブジェクト(LANSA以外)のリスト登録を使用します。 ファイルの検索にはF20を使用します。	
ファイル・データの組み込み	選択したファイルのデータを組み込みます。 通常は、テーブルVFPPF06/07の開発ユーザー・データを出荷しないことに注意してください。		

しかし、ターゲットの環境で誰もUF_DESGNが使用できず、フレームワークがセキュリティのスイッチがオンである場合には、1つの管理ユーザーを出荷すべきです。管理者のプロファイルはターゲットのサーバに存在するか、作成する必要があります。

ユーザーがターゲットの環境でUF_DESGNにアクセスする必要がある場合、ファイルはデータなしで出荷することができ、

UF_DESGNのユーザーはVFPPF06/07に管理者を登録することができます。その後、管理者はUF_ADMINを使ってユーザーを登録できます。

リストを
エクス
ポート

CRTSAVFコマンドを使用して、エクスポート・リスト用にセーブファイルBnn_ALLを作成してください。

エクスポート・リストをセーブファイルに、エクスポート・リストの処理メニューのオプション7(=エクスポート)でエクスポートしてください。

WIN3, Step 3. ターゲットシステムに配布物を移動

いくつかのセーブファイルBnn_ALLを物理的に配布する方法があります。

- IBM i 用のテープ
- IBM i 用のCD
- PC用のCD
- E-mail
- Webサイトからダウンロード

WIN3, Step 4. ターゲットシステムで配布物をインストール

ステップ	必要な作業	方法	✓
IBM i サーバーに LANSAD/AD をインストール	<p>LANSAD CDから LANSAD/ADをインストールします。</p> <p>LANSADシステムが、配布物を作成したシステムと同じバージョン、EPCレベルである必要がある点に注意してください。</p>	<p>LANSAD IBM i オブジェクトインストールガイドの指示に従ってください。</p>	
アプリケーション・サーバーに配布物をインポート	<p>LANSADインポート機能を使用して、ターゲット・マシンの該当区画にセーブファイル Bnn_ALLから全てをインストールします。</p>	<p>LANSADのシステム保守メニューの現行区画へのオブジェクト・インポートオプションを使用します。インポートが成功したことを確認します。</p>	
RAMP-TS オブジェクトの復元	<p>RAMP-TSアプリケーションを配布している場合は、RAMP-TSオブジェクトを復元する必要があります。</p>	<p>「WIN-RAMP-TS, Step 3. 配布ターゲットでRAMP-TS画面定義をインストール」を参照してください。</p>	
非LANSAD オブジェクトの復元	<p>アプリケーションに非LANSADオブジェクトがある場合、ターゲットシステムのIBM i の適切なライブラリに Bnn_OMnファイルから全てを復元してください。</p>		
ソフトウェアのイ	<p>インポートログでエラーや警告をチェック</p>		

インストールを確認

してください。エラーや警告が見つかった場合は、続ける前にそれらを解決して下さい。

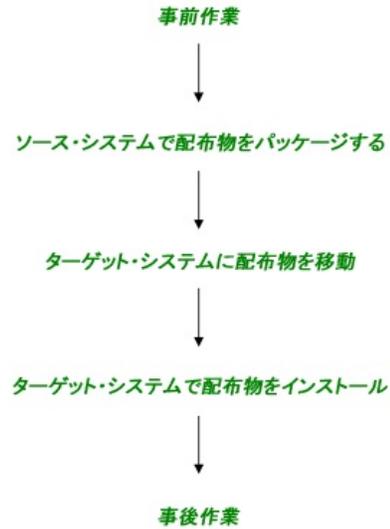
5250で実行するアプリケーションがある場合は、この段階でテストしてください。無い場合は、クライアント側のセットアップで全てをテストする必要があります。

WIN3, Step 5. 事後作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
バックアップとリカバリー方針	ターゲットシステムで定期的なバックアップとリカバリーの方針を作成すべきです。		
保守方針	VLFアプリケーションの変更を配布する方法を工夫してください。		

チェックリスト/計画シート => WIN4

VLFCクライアント/サーバー・アプリケーションのサーバー側をWindowsサーバーに配布する方法



参照したいダイアグラムの場所でクリックしてください。

概要

このチェックリストは、フレームワークのリッチクライアント/サーバー・アプリケーションを、Windowsサーバーに配布するステップを示しています。

WIN4, Step 1. 事前作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
ターゲットシステムの必要ライセンス	スーパーサーバー・ライセンス	詳細は http://www.lansa.jp/index.htm を参照ください。	
サポートされる最低限の構成(MSC: minimum supported configuration)の確立	<p>以下を含む、ユーザーのソリューションでサポートされる最低限の構成を正式に定義する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ハードウェア最小推奨要件 • ソフトウェア最小推奨要件 • サポートされる画面解像度 • 最低限のネットワーク機能 • 最低限のデータ量 	<p>正式なMSC(サポートされる最低限の構成)により以下のことが可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ソリューション全体のコストに関する決定を通知する • ソリューションやこれに対するパッチ、ホットフィックスの配布時のテストに必要なとなる環境を確立する • "MSC以下"のソリューションを導入する際のリスクを経営陣に認識してもらう <p>詳細については、『Visual LANSA フレームワーク ガイド』の「アプリケーションのパフォーマンス」を参照してください。</p>	

WIN4, Step 2. ソースシステムで配布物をパッケージ

アプリケーション配布の準備ができたなら、次のステップに従ってください。

ステップ	必要な作業	方法	✓
配布ツールの開始	Visual LANSAにログインして配布ツールを開始してください。	Visual LANSAを開始して配布したいアプリケーションを含むパーティションにログインしてください。 使用するユーザー・プロファイルが、配布オブジェクトに対する権限を持っているかどうか確認してください。 ツールメニューから、配布ツールコマンドを選択します。Visual LANSA配布ツールのメイン・ウィンドウが開きます。	
配布ツールのアプリケーションとパッケージを作成	配布ツールでアプリケーションとパッケージを作成してください。 テンプレートを使用しないでください。	ツールバーのNewのボタンをクリックするか、アプリケーションメニューの新規作成コマンドを選択してください。 アプリケーションの明細を入力 OKをクリックします。パッケージを作成するためのプロンプトが表示されます。 パッケージの詳細を入力してOKをクリックします。 パッケージのコントロールパネルが表示されます。	
配布オブ	パッケージの配布オブ	オプションボタンをクリッ	

<p>シヨンの設定</p>	<p>シヨンを自己解凍Zipに設定してください。 別の配布オプションを選択した場合は、このチェック・リストは機能しません。</p>	<p>クすると配布オプションのウィンドーが表示されま す。</p>
<p>パッケージ設定の指定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • システム/区画定義の配布 • LANSA実行環境の配布 • 実行環境データベース サポートの配布 • 実行環境アドオンの配布 • Visual LANSA サポートの配布 • LANSA コミュニケーション機能の配布 • サーバー機能の配布 • EPC の配布 	<p>パッケージの設定ウィンド を表示するためにツール バーのパッケージの設定ボ タンをクリックします。</p>
<p>データ ベースを 構成</p>	<p>導入されているデータ ベースの検索をはいに 設定して、他のデータ ベースオプションを必 要に応じて指定してく ださい。</p>	<p>例えば、Adaptive Server Anywhereをサーバにイン ストールするには:</p> <ul style="list-style-type: none"> • 導入されているデータ ベースの検索をはいに設 定 • Adaptive Server Anywhereの導入のプロ ンプトをはいに設定

		<ul style="list-style-type: none"> • DBMSタイプ(DBUT)をASAサーバーに設定 • ターゲット・マシンにインストールするデータソース名(DBII)を指定 • オプションでAdaptive Server Anywhereデータベースの組み込み(ASA設定ボタンをクリックして、Adaptive Server Anywhereのイメージ(SQLANYW.ENG)を見つけてください。)
<p>デスクトップの設定</p>	<p>デスクトップの設定を必要に応じて選択してください。</p>	<p>例えば、以下のオプションが上げられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • アプリケーションフォルダの作成 • コミュニケーション管理機能のショートカットの作成 • ライセンスの保守のショートカット作成 • ODBC アドミニストレーションのショートカットの作成
<p>どのパラメータをプロンプトするか決定</p>	<p>パッケージがインストールされる時にセットアップ・パラメータをプロンプトしたい場合は、パラメータを選択してX_STARTのプロンプトあるいはセットアップ中のプロンプトのオプションをチェッ</p>	<p>例えば、ターゲットのディレクトリをオプションにする場合は、パラメータをダブルクリックして表示されたウィンドでセットアップ中のプロンプトのチェックボックスを選択してください。</p>

	クしてください。	
フレームワーク・ファイルの追加	<p>エンドユーザーがVFPPF06/07のDBMSテーブルのユーザー情報を保管する場合は、それらを組み込む必要があります。</p> <p>コードテーブルを使用する場合は、コードテーブル・データファイルFPTABを組み込んでください。</p>	<p>他オプション・タブを表示します。</p> <p>ファイルをクリックします。</p> <p>ファイルを選択し、OKを押してください。</p>
サーバー側オブジェクトの組み込み	<p>アプリケーションの中のサーバ側の自分のオブジェクト多言語変数、システム変数、メッセージファイル、プロセス、ファンクション、イメージなどを追加してください。</p>	<p>ツールバーのリポジトリオブジェクトの選択ボタンをクリックします。</p> <p>全てのLANSA以外のオブジェクトが、ターゲットマシンの正しいインストールパスに設定されていることを確認してください。</p>
ファイルのデータを組み込む	<p>選択したファイルのデータを組み込みます。</p> <p>通常は、テーブルVFPPF06/07の開発ユーザー・データを出荷しないことに注意してください。</p> <p>しかし、ターゲットの環境で誰もUF_DESGNが使用できず、フレームワークがセキュリティのスイッチがオンである場合には、1つ</p>	<p>全てのファイルを選択してファイルデータ組み込みボタンをクリックしてください。</p> <p>データ列の表示が変わり、ファイルがデータと共にパッケージに組み込まれることを示します。</p>

	<p>の管理ユーザーを出荷すべきです。管理者のプロファイルはターゲットのサーバに存在するか、作成する必要があります。</p> <p>ユーザーがターゲットの環境でUF_DESGNにアクセスする必要がある場合、ファイルはデータなしで出荷することができます、UF_DESGNのユーザーはVFPPF06/07に管理者を登録することができます。その後、管理者はUF_ADMINを使ってユーザーを登録できます。</p>		
<p>アイコンの追加</p>	<p>ターゲットマシンに、パッケージがインストールされる時に作成するショートカットに使用されるアイコンを追加してください。</p>	<p>パッケージ制御パネルのツールバーのアプリケーションアイコンボタンをクリックしてください。アイコンを選択してください。</p>	
<p>パッケージの保管</p>	<p>定義を保存してください。</p>		
<p>アプリケーションにホストルートを組み込む</p>	<p>パッケージにホストルートとしてサーバ定義(lroute.datファイル)を組み込んでください。</p>	<p>Visual LANSA配布ツールメインウィンドから、アプリケーションを選択してコミュニケーション管理機能のツールバーボタンをクリックしてください。</p> <p>LANSAコミュニケーション管理機能が表示されます。</p>	

ステップ1で定義したサーバのエントリーがあることを確認してください。

LANSAコミュニケーション管理機能を閉じてください。アプリケーションが選択されていることを確認してから、アプリケーションメニューをクリックして、パッケージコミュニケーション管理オプションを選択してください。

パッケージの作成

クリックしてパッケージを作成してください。

アプリケーション・パッケージはX_PKGSに作成されます（例えば、C:\Program Files\LANSA\X_WIN95\X_LANSA\X_PKGS）。

オプションメニューでパッケージのチェックオプションを選択します。エラーが見つからなかったというメッセージでなければなりません。生成ボタンをクリックします。パッケージのコンパイルが完了するまで待ちます。使用中のパーティションで、全ての

RDMLXが
利用可能に
なっていないと、いく
つかのdllの
コピーが失
敗したとい
うメッセー
ジが表示さ
れることに
注意してく
ださい。
メッセージ
を無視して
ください。

WIN4, Step 3. ターゲットシステムに配布物を移動

ステップ	必要な作業	方法	✓
ターゲットシステムへ配布物を移動	パッケージ・フォルダの自己解凍Zipファイル(packagename.exe)をCDやネットワーク・サーバーなどのメディアにコピーしてください。 (注記：パッケージ・ディレクトリの全部をコピーしないでください。)		

WIN4, Step 4. ターゲットシステムで配布物をインストール

ステップ	必要な作業	方法	✓
Windows ユーザー としてフ レーム ワークを セット アップ	<p>フレームワークにサインオンするクライアントアプリケーションで使用する、正しいWindowsユーザーとパスワードをターゲットのWindowsサーバーに設定してください。</p> <p>フレームワークのユーザー管理を使用している場合は、同じユーザーIDとパスワードをフレームワークに定義してください。</p> <p>フレームワークのパスワードは異なりますが、Windowsのパスワードは大文字小文字を識別することに注意してください。フレームワークにログオンする際に、ターゲットのWindowsサーバーでパスワードがチェックされることを忘れないでください。</p>		

<p>配布物をインストール</p>	<p>パッケージの.EXEファイルを実行してパッケージをインストールしてください。</p> <p>WinZipの自己解凍機能(WinZip製品のライセンスとは別)がパッケージを作成したマシンにインストールされている場合は、アプリケーションが自動的にインストールされます。</p> <p>インストールが完了すると、デスクトップの設定により、アプリケーションのスタートアップ・フォルダーが作成されます。</p> <p>アプリケーションが利用可能になります。</p> <p>インストール中に問題が生じた場合は、パッケージをインストールしているディレクトリのdpinstal.logとテンポラリ・ディレクトリのログをチェックしてください。</p>		
<p>サーバー・ライセンスを適用</p>	<p>サーバー・システムにサーバー・ライセンスを適用する必要があります。</p>	<p>詳細は、クライアントとサーバー・アプリケーション配布ガイドのサーバー・ライセンス、新規ライセンス要求、およびライセンスのインストールを参照してください。</p>	

サーバー
のテスト

サーバーが正しくセッ
トアップされているか
テストしてください。

クライアントPCからサー
バーに接続するフォームを
実行します。

エラーがあれば、サーバー
上のx_err.logファイルを精査
してください。

WIN4, Step 5. 事後作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
バックアップとリカバリー方針	ターゲットシステムで定期的なバックアップとリカバリーの方針を作成すべきです。		
保守方針	VLFアプリケーションの変更を配布する方法を工夫してください。		

チェックリスト/計画シート => WIN-RAMP-TS

RAMP-TSアプリケーションをWindows/IBM iクライアント/サーバー・システムに配布する方法

事前作業



配布用にRAMP-TS画面定義を準備



配布ターゲットでRAMP-TS画面定義をインストール



事後作業

参照したいダイアグラムの場所でクリックしてください。

このチェックリストは、IBM i サーバーにWindows RAMP-TSクライアントを配布するときに、[チェックリスト/計画シート => WIN3](#)と組み合わせて使用してください。

概要

このチェックリストは、[チェックリスト/計画シート](#) => WIN3の指示に従ってRAMP-TSオブジェクトを配布パッケージにどのように組込むかを示しています。

WIN-RAMP-TS, Step 1. 事前作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
ターゲットシステムの必要ライセンス	ターゲットのIBM i サーバ上にAxex-TSのライセンスが必要です。		
サポートされる最低限の構成(MSC: minimum supported configuration)の確立	<p>以下を含む、ユーザーのソリューションでサポートされる最低限の構成を正式に定義する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ハードウェア最小推奨要件 • ソフトウェア最小推奨要件 • サポートされる画面解像度 • 最低限のネットワーク機能 • 最低限のデータ量 	<p>正式なMSC(サポートされる最低限の構成)により以下のことが可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ソリューション全体のコストに関する決定を通知する • ソリューションやこれに対するパッチ、ホットフィックスの配布時のテストに必要となる環境を確立する • "MSC以下"のソリューションを導入する際のリスクを経営陣に認識してもらう <p>詳細については、『Visual LANSА フレームワーク ガイド』の「アプリケーションのパフォーマンス」を参照してください。</p>	

WIN-RAMP-TS, Step 2. 配布用にRAMP-TS画面定義を準備

配布環境では、RAMP-TS画面定義は、通常\axes\ts\screensという名前のAxes Screensフォルダーに保持されています。[プライベート定義フォルダ]を使用して画面定義を分割して格納した場合は、Axes Screensフォルダーのサブフォルダーとして表示されます。

ステップ	必要な作業	方法
定義ファイルの確認	<p>個々の定義ファイルから削除されたサンプルまたはテスト用のスタティックまたはダイナミック・テーブル定義がないか確認します。</p> <p>削除された定義は通常はアプリケーションで現在使用されていません。また、実稼働環境に配布すると、エラーが発生する可能性があります。</p>	<p>プライベート・フォルダー(存在: axes\ts\screensフォルダーにあるTables_Dynamic.txtファイルを開き定義を削除します。</p>
aXesファイルのセーブ・ファイルへの追加	<p>開発Axes Screensフォルダーまたは任意の関連するプライベート定義フォルダーにある次のファイルをセーブ・ファイルにコピーします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • application_definition.css (plus application_definition_*.css) • application_definition.js • Extension_*.js • screen_*.js • screens.jsn • Tables_Static.txt 	<p>まず、CRTSAVFコマンドを使用を作成し、次にOS/400保存コマンドをセーブ・ファイルに保存します。例えば、次のコマンドは/axesデモンストラーツをセーブ・ファイルに保存します。</p> <pre>SAV DEV('/qsys.lib/savefilelib.lib/FILES OBJ('/axes'))</pre> <p>次のコマンドは、/axesおよび/axesコンテンツを保存します。</p> <pre>SAV DEV('/qsys.lib/savefilelib.lib/FILES OBJ('/axes') ('/axesdemo'))</pre> <p>次のコマンドは、プライベートファイルをセーブ・ファイルに1</p>

- Tables_Dynamic.txt
- Userenv.js
- *.xml

これらのファイルの中には、システムに存在しないものがある場合があります。

また、アプリケーションで共有スクリプトを使用している場合は、uf_sy420_rts.js ファイルを組み込みます。このファイルは、ts/skins フォルダーまたはプライベート定義フォルダーにあります。

アプリケーションを英語以外の言語で表示する場合は、修正済みのテキスト・ファイル Texts_Cust_*.txt も配布する必要があります。

N.scn のような名前の付いたファイルが単一の 5250 画面定義を表します。通常、これらのファイルは、RAMP-TS の開発時にのみ使用され、実行時のターゲット・システムに配布する必要はありません。ターゲット環境のユーザーに画面定義の修正を許可する場合にのみ、これらのファイルを配布パッケージに組み込みます。

```
SAV DEV('/QSYS.lib/QGPL.lib/R/
OBJ('/axes/ts/screens/MyFolder/ap
('/Axes/ts/screens/MyFolder/applica
('/Axes/ts/screens/MyFolder/Extens
('/Axes/ts/screens/MyFolder/screen_
('/Axes/ts/screens/MyFolder/screens
('/Axes/ts/screens/MyFolder/Tables_
('/Axes/ts/screens/MyFolder/Useren
('/Axes/ts/screens/MyFolder/*.xml')
('/Axes/ts/skins/uf_sy420_rts.js')) T
```

コマンドラインから入力したいけ
を実行してください。QCMDでF
コマンドで多くのオブジェクト
得ることができます。

サー
バー・
パッ

[チェックリスト/計画シート](#)
=> WIN3 に戻ります。

ページ
の作成
を続行

WIN-RAMP-TS, Step 3. 配布ターゲットでRAMP-TS画面定義をインストール

ステップ	必要な作業	方法
ターゲット・コンピュタへのAxes-TSのインストール	Axes-TSをターゲットのIBM iサーバーにインストールする必要があります。	<p>「IBM iサーバー上でのRAMP-TS / aXes-TSのインストールと構成」を参照してください。</p>
アプリケーション・フォルダの作成	ターゲット・システムで、 <code>ibm i CRTDIR</code> コマンドを使用して、 <code>\axes\ts\screens</code> フォルダのサブフォルダとしてアプリケーション・フォルダを作成します。	<p>このフォルダの名前には英数字のみが使用でき、ブランクは使用できません。</p> <p>例えばフォルダMyApplication1を <code>\axes\ts\screens\フォルダ</code> に作成する場合は、以下ようになります。</p> <pre>CRTDIR DIR('axes\ts\screens\myapplication1')</pre>
権限の設定	OS/400 <code>WRKLNK</code> コマンドを使用して、フォルダMyApplication1にユーザー	<pre>WRKLNK OBJ('axes\ts\screens\ MyApplication1')</pre> <p>を使用し、次にオプション9=Work with authorityを使用してフォルダMyApplication1に対する権限を表示または変更します。</p>

	<p>*PUBLICの*R 権限のみが含まれ、それ以外の権限は含まれないようにします。</p>	
<p>テーブルのロード</p>	<p>SQLコマンドを使用してスタティックまたはダイナミック・テーブルをアプリケーションにロードすることができます。</p> <p>aXesサーバーを実行しているユーザーに、必要なSQL/データベース・テーブルに対するREAD権限が付与されていることを確認します。</p>	<p>コマンドは、aXesサーバーを実行しているユーザー・プロファイル下で実行されます。</p> <p>そのためには、必要なSQLテーブルに対する読み取りアクセス権をユーザー・プロファイルに承認する必要があります。このユーザーには、システム上のその他のデータベースに対する権限は必要ありません。</p>
<p>aXes定義を格納しているセーブ・ファイルのターゲット</p>	<p>ターゲット・システムで、IBM i RSTコマンドを使用してaXesファイルをターゲット・システムのアプリケーション・フォルダーに復元</p>	<p>セーブ・ファイルを復元するには、次のようなコマンドを使用します。</p> <pre>RST DEV('/qsys.lib/v11v1flib.lib/rampstf.file') OBJ('/Axes/ts/screens/MyFolder' *INCLUDE '/axes/ts/screens/myapplication1'))</pre> <p>DEVパラメータはセーブ・ファイルの名前とパスを指定します。</p> <p>OBJパラメータは、以下を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 最初に、ファイルの保存元のフォルダー

ト・システムへの配布

します。
警告：復元したscreens.jsnファイルには、全てのRAMP-TS画面定義が含まれています。
ターゲット・システム上の任意のユーザーが開発者または設計者としてAxesを起動し、画面を識別して定義を保存しようとする、screens.jsnファイルが発行されます。これにより、全ての画面定義がこのファイルから効率よく削除されます。ただし、開発者または設計者が新たに定義した画面は除きません。このような場合は、screens.jsnファイルを再度復元する必要があります。
このシステム

を指定します。

- *INCLUDEでオブジェクト名のパターンに一致するオブジェクトを指定します。
- 最後に、ファイルの復元先となるターゲット・システム上のフォルダーを指定します。

の全てのアプリケーションで使用される aXes eXtension は、個人のアプリケーション・フォルダーではなく、ターゲット・システムの

axes/ts/screens フォルダーにあります。

同一の aXes eXtension が screens フォルダーとアプリケーション・フォルダーに存在する場合は、アプリケーション・フォルダー内の eXtension が優先されますが、确实ではないため、どちらのバージョンが使用されているのか確認する必要があります。

IE 設定
の確認

RAMP-TS が使用されている全ての PC の IE の設定を確認

この設定が正しくない場合は、次のようなエラーが表示されます。

します。



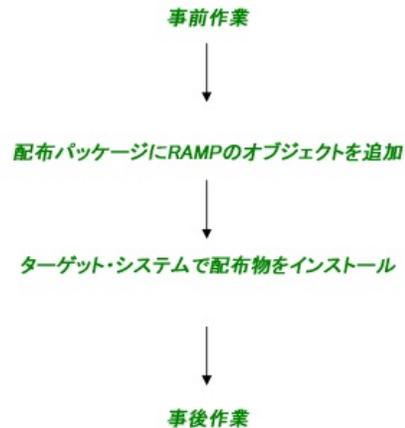
『RAMP-TSガイド』の「[Internet Explorerのセキュリティ設定の確認](#)」を参照してください。

WIN-RAMP-TS, Step 4. 事後作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
5250画面定義の変更をアップデート	RAMPアプリケーションに新しい5250画面の追加や、既存の画面の機能の変更を行う場合には、それらの変更が再配布が必要なscreens.jsnファイルに反映されます。	このガイドの適切な手順を全てまたは一部繰り返します。	
バックアップとリカバリー方針	ターゲットシステムで定期的なバックアップとリカバリーの方針を作成すべきです。		
保守方針	VLFアプリケーションの変更を配布する方法を工夫してください。		

チェックリスト/計画シート => WIN-RAMP-NL

RAMPクライアント/サーバー・アプリケーションのクライアント側を配布する方法



参照したいダイアグラムの場所でクリックしてください。

このチェックリストは、IBM i サーバー(チェックリストWin3)に WindowsのRAMP-NLクライアントを配布するときに、[チェックリスト/計画シート => WIN2](#)と組み合わせて使用ください。

概要

このチェックリストは、[チェックリスト/計画シート => WIN2](#)の指示に従ってRAMP-NLオブジェクトをWindowsクライアント・パッケージにどのように組み込むかを示しています。

WIN-RAMP-NL, Step 1. 事前作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
ターゲットシステムの必要ライセンス	newlookのliteclientライセンスが、IBM i アプリケーション・サーバーに適用される必要があります。クライアントシステムにライセンスは不要です。		
サポートされる最低限の構成(MSC: minimum supported configuration)の確立	<p>以下を含む、ユーザーのソリューションでサポートされる最低限の構成を正式に定義する必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ハードウェア最小推奨要件 • ソフトウェア最小推奨要件 • サポートされる画面解像度 • 最低限のネットワーク機能 • 最低限のデータ量 	<p>正式なMSC(サポートされる最低限の構成)により以下のことが可能になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ソリューション全体のコストに関する決定を通知する • ソリューションやこれに対するパッチ、ホットフィックスの配布時のテストに必要となる環境を確立する • "MSC以下"のソリューションを導入する際のリスクを経営陣に認識してもらう <p>詳細については、『Visual LANSА フレームワーク ガイド』の「アプリケーションのパフォーマンス」を参照してください。</p>	

WIN-RAMP-NL, Step 2. 配布パッケージにRAMP-NLのオブジェクトを追加

WIN2のチェックリストの指示に従って作成されたRAMP-NLオブジェクトを、このステップを実行してクライアントパッケージに組込んでください。

ステップ	必要な作業	方法	✓
RAMP-NLのLANSA以外のオブジェクトを組込む	<p>RAMP-NLを開発しているPCの区画の実行ディレクトリからそれらを組み込んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • VF_SY001_Nodes.XML • VF_SY001_Nodes_*.JS (全てのアプリケーション・セッションに対し1つのファイルがあります。) • VF_SY120.JS • VF_SY120.HTM • UF_SY120.JS 	<p>他オブジェクト・オプション・タブを表示します。 LANSA以外のオブジェクトをダブルクリックしてオブジェクトを閲覧します。 オブジェクトを選択し、OKを押してください。</p>	
ネットワークカスタマイズファイルの組み込み	<p>newlookのプログラムディレクトリ(通常は Program Files/looksoftware 8.0)のオブジェクトもLANSA以外のオブジェクトとして組み込みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Newlook.SID • Newlook.INI • VF_XP.nlgファイル • newlookの構成に対するカスタム・ファイル(例として、追加 	<p>他オブジェクト・オプション・タブを表示します。 LANSA以外のオブジェクトをダブルクリックしてオブジェクトを閲覧します。 オブジェクトを選択し、OKを押してください。</p>	

	したイメージなど)		
NL80.exe オブジェ クトの組 み込み または newlook のプログ ラムファ イルの RAMP- NLパッ ケージの 組み込み	<p>ターゲットPCに自分でNL80.exeをインストールするか、newlookを自動的にパッケージでインストールできるようにnewlookプログラムファイルをパッケージに組み込む2つのオプションがあります。</p> <p>正式なNL80.exeでnewlookを自分でインストールする場合は、配布テストは少なくなりますが、全てのPCで二つの個別のインストールを行う必要があります。</p>	<p>newlookインストールアプリケーションNL80.exeを見つけて、LANSA以外のオブジェクトとして組み込んでください。</p> <p>このファイルのコピーが無い場合は、Look Softwareのウェブサイトからダウンロードすることができます。</p> <p>または newlookをRAMP-NLにパッケージします。</p>	
配布物を パッケー ジに続く	<p>WIN2, Step 2. ソースシステムで配布物をパッケージのステップに進んでください。</p>		

newlookをRAMP-NLにパッケージ

このセクションではRAMP-NLパッケージにnewlookのアプリケーション・ファイルを組み込む方法について説明しています。

ステップ	必要な作業	方法
パッケージ作成するPCにnewlookがインストールされていること、正しく構成されていることを確認	配布パッケージを作成しようとしているPCに、newlook 8がインストールされていることを確認してください。 ユーザーのPCにこのバージョンを配布することを確認してください。	
newlookの自動構成プログラムのダウンロード	このプログラムは、newlookのActiveXコンポーネントをサイトに登録し、ターゲットPCにnewlookに必要なレジストリキーを作成します。	newlookディレクトリ(C:\Program Files\looksoftware 8.0)をクリックしてください。 http://chiweb.lansa.com/public/newlook/Support
newlookオブジェクトの追加	全てのファイルを、newlookのルートディレクトリ(通常はC:\Program Files\looksoftware 8.0)から、パッケージのLANSA以外の	配布ツールのツールバーのリポジトリをクリックしてください。 次に、他オプション・タブのLANSA以外をクリックしてください。looksoftware 8.0のディレクトリの全てのオブジェクトを選択 looksoftware 8.0/Tablesディレクトリの全 トップ繰り返ししてください。

オブジェクトのリストに追加してください。

newlookのTableディレクトリ(C:\Program Files\looksoftware 8.0\Tables)の全てのファイルも追加してください。

newlookの他のサブディレクトリは組み込まないでください。

RAMP-NLアプリケーションに関連してに他のファイルを追加している場合は、例えば、ユーザがプリントエミュレーションは、全ての.nlpファイルをPrintersディレクトリに追加してください。

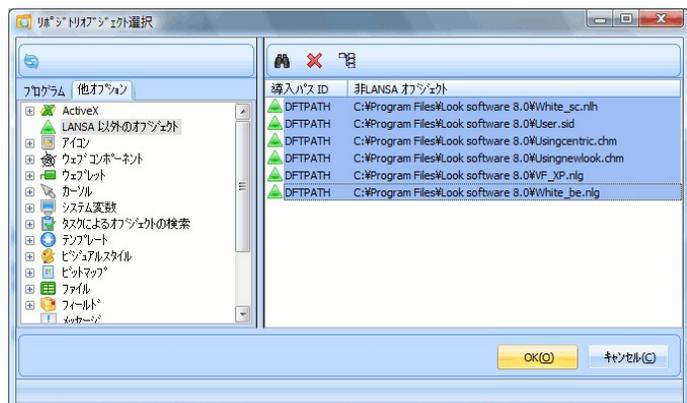
newlookプログラムファイルのインストールパスを設定

ターゲットPC上のnewlookファイルをインストールするディレクトリを指定してください。

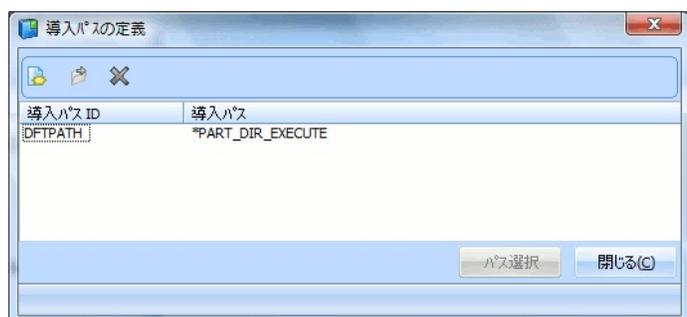
例えば以下のようになります。

C:\Program Files\Application Name\newlook directory

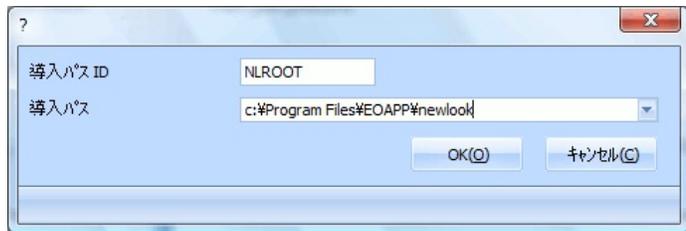
looksoftware 8.0のルートディレクトリにイルをハイライトして、ツールバーのイをクリックしてください。



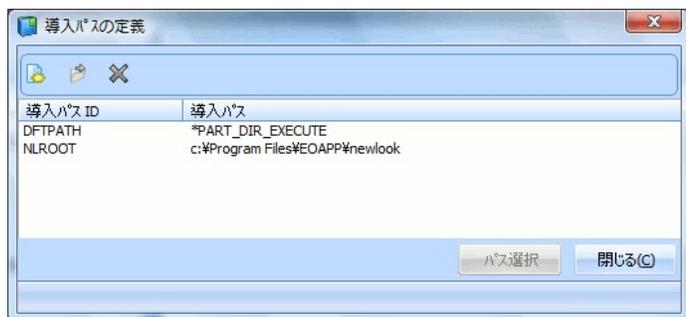
次にツールバーの新規のインストールボタンをクリックしてください。



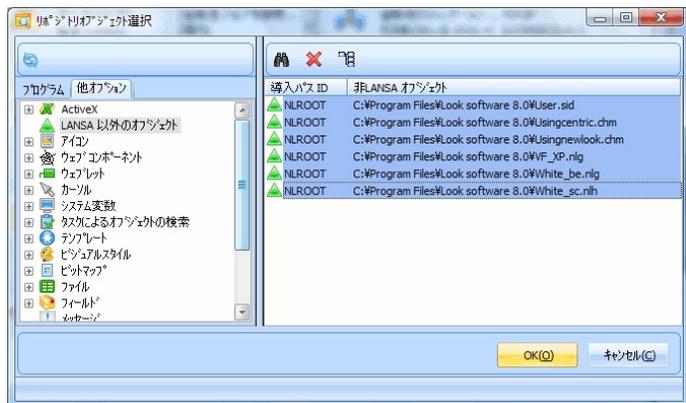
導入パスIDフィールドをNLROOTに設定
フィールドをC:\Program Files\Application
OKをクリックしてください。



NLROOTパスIDをハイライトして、パ
ンしてください。



画面は以下のようにになっているはず



newlook
tablesの
インス
トール
パスを
設定

newlook/tablesディ
レクトリから、
NLTABLESに組み込
むファイルのインス
トールパスを、上記
のステップを繰り返

導入パスIDフィールドをNLTABLESに設
フィールドをC:\Program Files\Application
て、OKをクリックしてください。

導入パスフィールドにインストールパス
合は、ドキュメントに一度タイプして、

して設定してください。
 例えば以下のように
 なります。
 C:\Program
 Files\Application
 Name\newlook\Tables

ストしてください。
 OKをクリックして、先に進む前にパッ

パッ
 ケージ
 に
 newlook
 のディ
 レクト
 リを作
 成する
 ための
 指示

配布パッケージに上
 記で指定した
 newlookディレクト
 リを作成するように
 指示してください。
 そのために、インス
 トールを始める前に
 MDコマンド(Make
 Directory)を実行し
 ます。

配布ツールのツールバーの実行するコマ
 ず。
 導入する前に実行するコマンドタブに、
 さい。次の通りダブルコーテーションを
 い。

実行するコマンド			
導入前に実行するコマンド		導入後に実行するコマンド	
順序	ステータス	コマンド	パラメータ
1.00	ALL	MD	"C:\Program Files\EOAPP"
2.00	ALL	MD	"C:\Program Files\EOAPP\newlook"
3.00	ALL	MD	"C:\Program Files\EOAPP\newlook\Tables"
4.00			

ALL MD "C:\Program Files\Application Na
 ALL MD "C:\Program Files\Application Na
 ALL MD "C:\Program Files\Application Na

配布ツールは、中間ディレクトリが存在
 リを作成するので、中間ディレクトリを
 いことに注意してください。
 newlookディレクトリに他のディレクト
 のディレクトリを作成するために同様に
 ります。

パッ
 ケージ
 に
 newlook
 の自動
 構成プ

必要なファイルをイン
 ストールした後
 に、パッケージに
 NLAutoConfigure.exe
 プログラムを実行す
 るように指示してく

導入前に実行するコマンドタブに、次の
 い。

ALL Execute "C:\Program Files\Application
 Name\newlook\NLAutoConfigure.exe"
 OKをクリックします。

プログラムを実行する
ように指示

ださい。
このプログラムは
newlook ActiveXコ
ンポーネントを登録
し、newlookのレジ
ストリキーを作成す
ることを思い出して
ください。

WIN-RAMP-NL, Step 3. ターゲットシステムで配布物をインストール

全てのnewlookプログラムファイルをパッケージに組み込んでいる場合 ([newlookをRAMP-NLにパッケージ](#)を参照)は、newlookとRAMP-NLは自動的にインストールされます。

newlookを自分でインストールしたい場合は、以下のステップに従ってください。

警告:開発システムで配布パッケージのテストをしないでください。

ステップ	必要な作業	方法	✓
newlookのインストールを検証	ワークステーションにnewlookがインストールされていない場合には、区画の実行ディレクトリ(例として、X_WIN95/X_LANSA/X_DEM/EXECUTE/)でnl80.exeを見つけてください。 newlookをインストールするためにこれを実行してください。		
RAMP-NLファイルをnewlookディレクトリにコピー	newlookがインストールされたら、以下のファイルを区画の実行ディレクトリから、newlookのディレクトリ(省略値でインストールしている場合、Program Files/looksoftware 8.0 directory)にコピーしてください。 <ul style="list-style-type: none">• Newlook.SID• Newlook.INI• VF_XP*.nlgファイル		

注記：IBM i サーバーのサイン・オン画面が開発環境のサイン・オン画面と一致していることを確認してください。画面を識別するためにユーザー名とパスワードのフィールドを使用していた場合は、通常、そのフィールドは画面上の同じ位置に表示されます。同じ位置に表示されない場合は、ターゲット・システムのサイン・オン画面についてnewlook画面のオーバーライドを定義する必要があります。

WIN-RAMP-NL, Step 4. 事後作業とその他の考慮点

ステップ	必要な作業	方法	✓
バックアップとリカバリー方針	ターゲットシステムで定期的なバックアップとリカバリーの方針を作成すべきです。		
保守方針	VLFアプリケーションの変更を配布する方法を工夫してください。		